

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

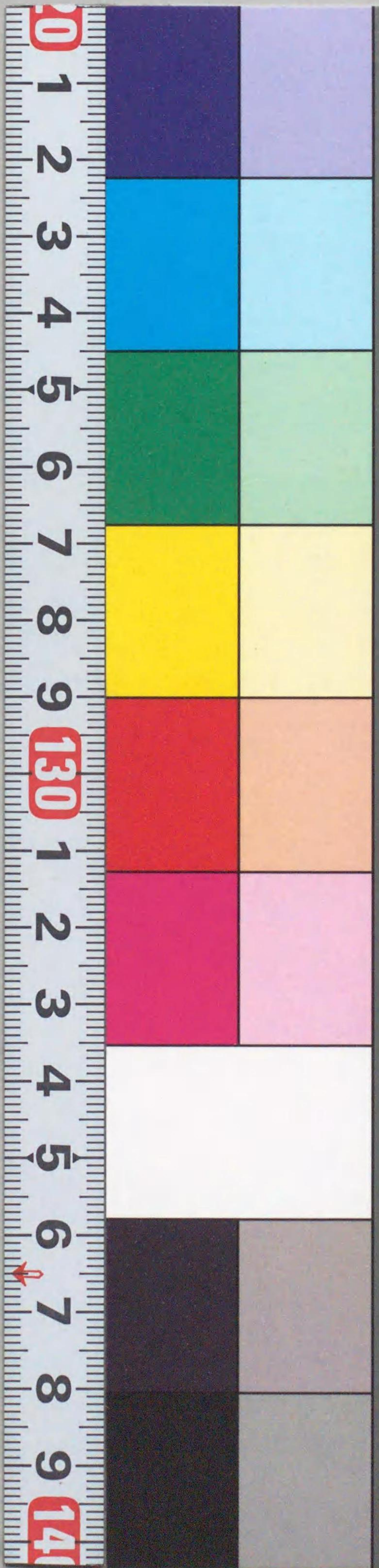
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



明治廿四年十月廿二日內務省許可

Y994
J7874

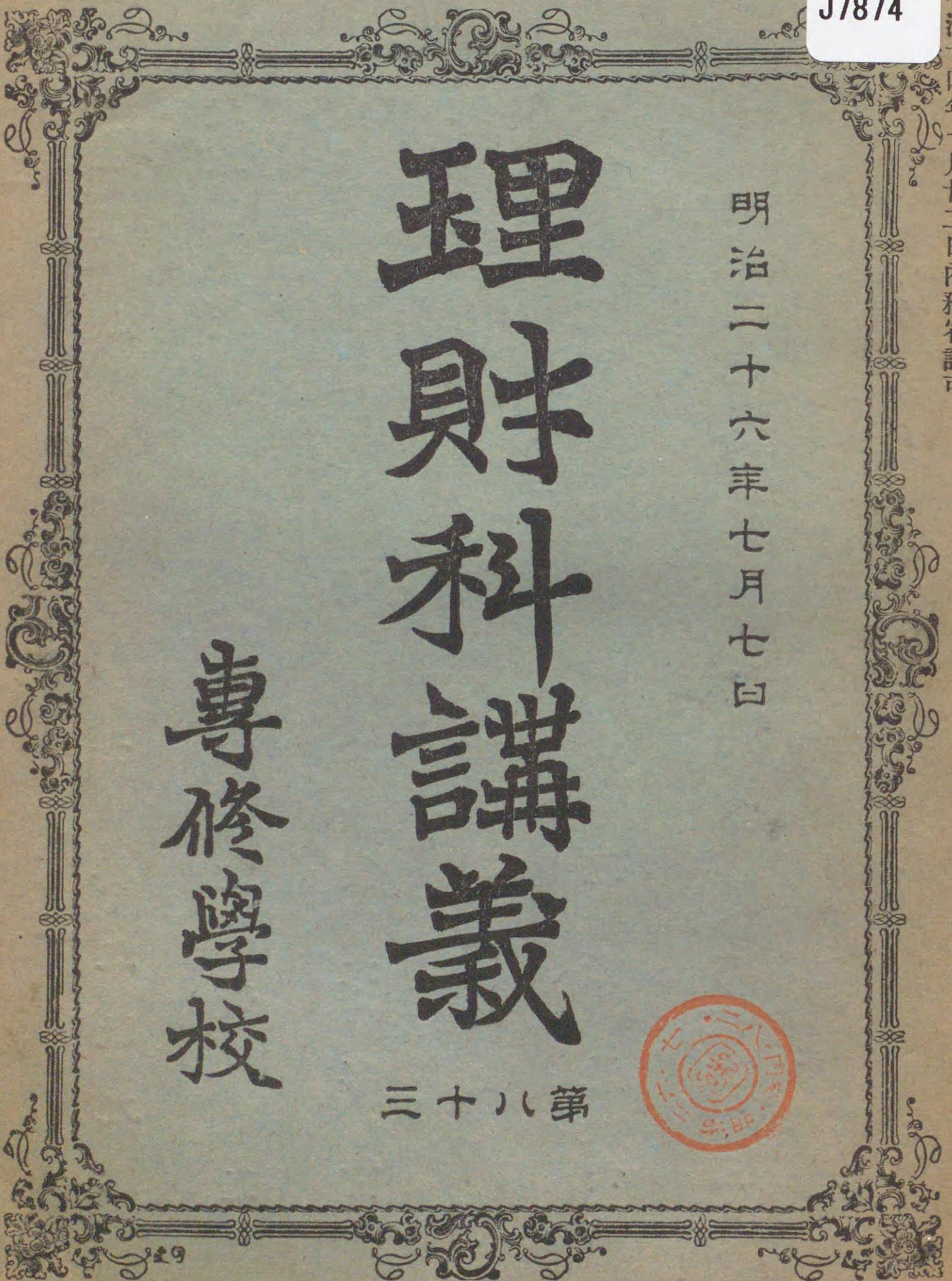
明治二十六年七月七日

理財科講義

第三十八

專修學校

東京日曜會





I 種
W



1200801155384

目 録

農業經濟	法學士 井上辰九郎
社會問題	法學博士 金井 延
商 法 <small>(第一章編第)</small>	法學士 鈴木宗言
刑法(總則)	法學士 岡田朝太郎
法 例	法學士 兩角彦六
歷史學	文學博士 坪井九馬三
二十年来經濟世界之景况	法學博士 田尻稻次郎

或ハ其増加シタル收穫ノ見積高ノ一部ヲ以テ起業家ニ與フルノ方法ヲ定メ利益分配ヲ行ハサル可カラス例之ハ一千七百九十四年ノ法律ニ依レハダニユーブ河ノ沼澤ニ於テ排水事業ヲ行ヒタルモノハ其排水セラレタル土地ノ私有タルト借地タルトニ從ヒ圃場及ヒ毎年二回收穫アル牧場ハ其面積ノ三分ノ一又ハ六分ノ一(若クハ十年間一「モルゲン」毎二年々一「グルデン」又ハ二「グルデン」ノ收益金)又ハ牧場及ヒ毎年一回刈入レアル牧場ハ其地面ノ四分ノ一或ハ二分ノ一(若クハ十年間一「モルゲン」毎二年々一「グルデン」平或ハ三「グルデン」)地地主若クハ借地人ヨリ徴収スルコト、セリ又佛國ニ於テハ排水ノ前後ニ其土地ヲ調査シ其排水ノ爲メニ増加シタル土地ノ收穫ノ剩餘ハ契約證書ニ從ヒ之ヲ分配シ又地主ハ或ハ其土地ノ幾分ヲ割テ起業家ニ與へ或ハ年々相當ノ收益金ヲ拂ヒタル上其資本金ヲ皆済スルマテハ興業費額ニ對シテ年四分ノ利子ヲ支拂フヘキモノトセリ又英國ニ於テハビール氏ノ設立ニ係ルニ大會社アリ而シテ此會社ハ土地ニ埋筒センコトヲ欲スル地主ノ依頼ニ應シテ其土地ヲ檢査シ若シ其收穫每年少ナクモ興業費ノ一割以上ヲ補償スル見込アルトキハ其望ミニ應シテ埋

筒ヲ設ケ土地債券ヲ發行シテ其費用ニ充テ而シテ其土地ヨリ生スル年々ノ收益ヲ以テ元利ヲ償却セシムルモノナリ

第三章 大中小ノ農地

第一節 大中小農地ノ意義

凡ソ經濟上農地ノ大小ヲ測定スルニ當リテハ管ニ幾何學的測量即チ其面積ノ廣狹ノミヲ以テセス須ラク其價格如何ヲ考量セサル可カラス即チ吾人ノ所謂大中小ノ農地ナルモノハ其收穫ノ多寡農民ノ社會上ノ地位及ヒ其國經濟ノ程度ニ於テ要スル所ノ資本及ヒ勞力ノ多寡ニ就テ之ヲ謂フモノニシテロツシエル氏ハ之ニ關シテ左ノ如ク區別セリ

甲 大農地トハ教育ニ富ミ上等ノ階級ニ屬スル所ノ農家カ唯其農業ヲ監督スルノミナ以テ充分ノ業務トナスモノニシテ所謂士有地 (Rittergüter) ノ如キハ多クハ之ニ屬ス而シテ若シ其土地更ニ廣大ニシテ一人ノ能ク之ヲ監督スルコ

ト能ハスシテ尙ホ下監督人ヲ置クヲ必要トナスカ如キモノハ時ニ之ヲ所領地 (Herrschaft) ト稱ス

乙 中農地トハ其所有者ノ業務トスル所獨リ監督ノミナ以テ足レリトナサス又自ラ數多ノ時間中粗野ナル勞働ニ服スルヲ厭ハス傭夫ト共ニ農耕ニ從事スルモノナレトモ猶許多ノ仕事ハ主トシテ傭夫ニ之ヲ爲サシムルモノニシテ稍大ナル農有地 (Bauerngüter) ハ多ク此種類ニ入ルモノナリ

丙 小農地トハ通常農民及ヒ其一家族ニテ耕作シ其勞働ノミニテ充分ナルモノナ云フ

丁 若シ其耕作スル所微少ニ過キ其一家全體ノ力ヲ用ユルヲ要セサルニ至テハ最早之ヲ農地ト稱ス可カラス唯僅ニ之ヲ小圃 (Parzellen) ト呼フノミ斯ル小圃ノ所有者ハ通常其職業ノ傍ラニ副業トシテ耕作スルモノナリ
大中小ノ農地ハ大略此ノ如ク區別スルヲ得ヘシト雖モ此區別タル固ヨリ比較的ノモノニシテ唯大體ノ標準トナシ得ルニ過キス即チ農地ノ大中小ニ關スル區別ノ觀念ハ國ニ由リ又時代ニ由リ又學者ノ所說ニ由テ異同アルヲ免レサル

モノトス今其一ニヲ舉ケンニ古昔ノフランク時代ニ在テハ男ノ奴隸三十人女ノ奴隸三十人乘馬壹頭種馬一頭及ヒ牝馬十二頭牡牛十二頭綿羊六十頭山羊百頭豚九十頭及ヒ之ニ對スル牧夫ヲ有スルモノヲ以テ大農家トナセリ然レトモ今日ヨリ之ヲ觀レハ當時ノ農業ハ資本ニ乏シキヲ以テ未タ大農家トナスニ足ラサルナリ又ラウ氏ノ經濟書ニ依レハ一頭ノ馬又ハ牡牛ヲ使用シテ耕作スルモノヲ小農地トナシ數頭ノ牛馬ヲ使用シ且所有者自ラ耕作ニ從事スルモノヲ中農地トナシ又所有者ハ唯農業ヲ監督スルノ勞ヲ取ルニ止マリ自ラ勞力者ト共ニ耕作ニ從事スルヲ要セサルモノヲ大農地ト稱セリ又パツシ井氏ハ一挺ノ鋤ヲ使用スルニ充タサル土地ヲ小農地トナシ一二挺ノ鋤ヲ使用スルニ足ルモノヲ中農地ト稱シ而シテ是ヨリ以上ヲ大農地ト論定セリ

農地ノ大小ヲ定ムヘキ標準ニ就テハ此ノ如ク種々ノ差アレトモ要スルニ土地ノ面積ハ勿論其土地ノ耕作ニ使用スヘキ資本及ヒ勞力所有者ノ貧富等ハ皆共ニ考量スヘキ條件ナリト云フヘシ然ルニ世人往々小農地ヲ以テ資本就中家畜ニ集約ナルモノトナシ大農地ニ比シテ痛ク之ヲ賞譽スルモノアリト雖モ是大

農地ノ眞義ヲ解セサルモノニシテ土地ハ必スシモ資本ト逆比例ヲナスヘキモノニ非ス現ニ土地大ナルモ其資本亦從テ大ナルコト英國其他ノ諸國ノ大農地ニ於テ實際之アルコトヲ知ラサルノ誤リニ座スルノミ或ハ云フ所謂大區畫ノ農業ヨリモ小區畫ノ農業ハ資本及ヒ勞力ヲ集約ニスルコト輒ク且農業ヲシテ速ニ集約ナラシメンニハ其規模ヲ縮小ニスルニ如カサルコトハ爭フ可カラサルノ道理ニシテ英佛獨等ノ諸國業已ニ踏踐シ來リタル所ノ事實ニアラスヤト然レトモ此說タル吾人ノ所謂大農及ヒ小農トハ其實體ヲ異ニスルモノニシテ吾人ノ所謂大農トハ決シテ資本及ヒ勞力ニ粗薄ナルモノニ非ス又其小農トハ必スシモ資本及ヒ勞力ニ集約ナルモノヲ指スニ非サルナリ若シ果シテ一ハ粗薄ナルモノ一ハ集約ナルモノトセハ所謂大農及ヒ小農ノ得失論ハ宛モ疎薄農業ト集約農業ノ得失論ト同一トナリ特ニ此ニ論究スルノ必要アラサルナリ而シテ吾人ノ此ニ討究セント欲スル問題ハ或一定ノ地方ニ於テ同一ノ廣域ヲ有シ同一ノ品質ヲ有スル圃場ヲ同額ノ資本及ヒ勞力ヲ以テ耕作スルニ當リ少數ノ大農家アルト許多ノ小農家ニ分ル、ト何レカ利益アルヤト云フニ在リ更ニ

之ヲ詳言スレハ同一ノ勞力及ヒ資本ヲ少數ノ大農地ニ約シテ使用セルト多數ノ小農地ニ散シテ使用スルト何レカ勝レリヤト云フコト是ナリ而シテ此問題ニ對スル裁斷ハ請フ節ヲ改メテ之ヲ說カン

第二節 大農ト小農トノ得失

今ヤ大農ト小農トノ得失ヲ討究スルニ當リ便宜ノ爲メ項ヲ分チ先ツ大農ノ利益ヲ說キ次ニ小農ノ利益ニ及ヒ以テ二者ノ得失ヲ對照セン

甲 凡ソ大農ハ左ノ如キ利益アリ

第一 大農ハ勞力ヲ分合スルコト容易ナルノ利益アリ即チ勞力者ヲシテ業務ノ分擔宜シキヲ得セシメ從テ仕事ノ精巧ヲ致シ且時間及ヒ勞苦ヲ節約スルノ利益アリトス更ニ之ヲ詳說センニ凡ソ大農地ニ在テハ多數ノ人員ヲ僱役スルモノナルカ故ニ各種ノ勞役ニ對シテ專務ノ適任者ヲ選擇スルヲ得ヘシ即チ簿記、運搬、牧羊、搾乳等ノ如キ各種類ノ仕事ニ就テ特ニ長シタルモノヲシテ其技能ヲ專ラニセシムルヲ得ヘク從テ割合ニ勞苦少ナクシテ良質ノ物品ヲ造出スル

ヲ得ヘシ加之ナラス學術ニ富ミタル經濟家若クハ時機ヲ失セサル投機者ヲ僱聘シテ農業上ノ顧問トナスカ如キハ到底小農ノ企テ及フ能ハサル所ナリトス又勞力者ノ員數ノ如キモ其農地ノ廣大ナル割合ニ多數ヲ要スルモノニ非ス例之ハ牛馬ヲ監視スルノ勞力ノ如キ其數壹頭ナルト拾頭ナルトニ因リ敢テ十倍ノ人夫ヲ要スルニ非サルヲ以テ大農地ハ時間及ヒ勞苦ヲ節省スルノ利益アルコト尠少ニ非サルナリ

第二 資本ヲ運用スルノ點ニ付キ大農ハ一層之ヲ分合セルノ利益アリ即チ之ヲ分析スレハ(一)物品ノ買入レ運搬及ヒ販賣ニ關スル費用並ニ建築物ニ關スル費用ハ割合ニ少ナク(二)廣大ナル排水及ヒ灌漑等ノ工事ヲ起シ又高價ナル器械及ヒ物品ヲ買入ル、コトヲ得(三)負債ヲ募集スルコト容易ナリ

凡ソ物品ハ之ヲ多額ニ買入ル、トキハ其代價割合ニ低廉ナルモノナリ又其之ヲ販賣スルニ當テモ亦廉價ヲ以テスルヲ得ヘク且一時ニ同質ノ物品ヲ多額ニ賣却シ得ルノ便利アルヲ以テ容易ニ購買者ヲ見出シ得ヘキナリ而シテ之ヲ販賣センカ爲メニ要スル運搬及ヒ貯藏ノ費用ノ如キモ其多額ナル割合ニ多キヲ

要セサルモノナリ又農耕上ノ牛馬ニ至テモ大農ハ割合ニ多キヲ要セス例之ハ
 白耳義ノ如ク土地細分セラレタル國ニ於テハ一千八百四十六年毎百ヘクタ
 ルニ付農馬十頭ヲ使用シタリシカトモ大貌頗ニ於テハ僅ニ六頭ナリシト云フ
 事實アリ又建築物ノ如キモ大農ニ在テハ小農ニ比スレハ多ク之ヲ節約スルヲ
 得ヘシ例之ハ一百頭ノ牝牛ヲ飼養スヘキ牛舎ハ決シテ五頭ノ牝牛ヲ容ルヘキ
 モノニ二十倍大ナルヲ要シ又二十倍ノ煉化及ヒ二十倍ノ燈火ヲ要スルモノニ
 非サルカ如シ

又廣大ナル灌溉及ヒ排水ノ營造物ヲ設クルカ如キ或ハ高價ナル器械貴重ナル
 家畜ノ標本ヲ備フルカ如キハ皆大農ニ非サレハ之ヲ行フコト能ハスシテ現ニ
 一千八百五十五年マテニ普國ニ於テ大農家ノ埋筒ヲ行フタル土地ハ十七萬八
 千十二モルゲンナリシモ小農家ニ在リテハ二萬八百七十七モルゲンナリシト
 云フカ如キ又伊太利ロムバードイ州ニ於テ灌溉ノ大工事ヲ起シ大ニ牧場ノ改
 良ヲ顯ハシタルハ職トシテ大地主ノ協力ニ是レ由リタルカ如キハ大農ノ利益
 ヲ證スルモノナリ又耕作ノ副業トシテ行フコト極メテ便利ナルモ其失費少ナ

ル運動ノ結果ナリ而シテ此新法律ハ今現ニ獨逸ニ於テ實行セラレツ、アリ然
 レトモ果シテ其豫期ノ良結果ヲ呈スヘキヤ將タ然ラサルヤハ之ヲ數年ノ後ニ
 驗徴セサル可カラサルナリ
 以上縷述シタル所ニテ略ホ獨逸ニ於ケル勞働者保護律ノコトヲ終レリ故ニ編
 ヲ改メテ佛國ニ於ケル勞働者ノ保護如何ヲ見ン

第三編 佛國ノ勞働者保護律

第一章 沿革

第一節 佛國勞働者保護律ノ起原

佛國ニ於テハ世人ノ普ク知ルカ如ク彼ノ一千七百八十九年ノ大革命アリタル
 カ爲メ政治上及ヒ社會上實ニ千古未曾有ノ大變動ヲ生シ舊來ノ事物ヲ一變シ
 更ニ新ナル一乾坤ヲ創製シタルカ如キ思ヒアリタリキ從テ其大變動ノ狂瀾中

ニ漂蕩シタル労働者ノ状態ニモ非常ノ影響ヲ及ボシ以前ノ奴隸的關係自然ニ
 熄ンテ労働ノ去就ハ一ニ雇主ト被雇人ノ相互ノ合意ニ因テ定マルコトナレ
 リ抑革命以前ニ在テハ労働者ノ境遇眞ニ奴隸的ニシテ労働ノ自由ナク殘虐ノ
 驅使ニ遇フモ訴フル所ナク哀憐極マレルモノナリシカトモ彼ノ大革命ノ結果
 ハ忽チ労働者ニ去就ノ自由ヲ與ヘタリ故ニ一千七百八十九年ノ大革命ハ佛國
 ニ取テ甚タ不幸ナリシカトモ其労働者ニ取テハ大ニ利益アリタルカ如シ然ル
 ニ其後幾許モナクシテ一時労働者ノ幸福ナルカ如ク見エタル労働ノ自由ハ意
 想外ノ惡弊ヲ惹起シタリ元來雇主ト被雇人ト單獨ニ相對スルトキハ常ニ雇主
 ハ强者ニシテ被雇人ハ弱者ナリ雇主ハ利益アル地位ニ立チ被雇人ハ不利益ノ
 地位ニ居ルモノナルヲ以テ二者ノ間ニ於ケル進退懸引ハ到底公平ナル能ハス
 從テ雇主ト労働者トノ自由契約ハ始終ノ弱者タル労働者ノ不自由トナルハ必
 然ナリ此ノ如ク強弱ノ懸隔アル間ニ於テ交互任意ノ契約ヲ締結セハ其弱者タ
 ルモノ、不利益ニ終ルハ當然ノ勢ナリ果セル哉佛國ニ於テ労働自由ヲ認知シ
 テヨリ以來大ニ労働者ノ有様ヲ變シタリ殊ニ理化學及ヒ物理學ノ進歩開發ニ

伴ヒ工業界ニ於ケル新元素即チ器械ノ發明アリタルノミニテモ已ニ能ク古來
 ノ労働者ノ有様ヲ一變スルニ足レリ其故他ナシ舊慣ノ工業ハ多ク小仕掛ニシ
 テ一箇人若クハ家内ノ工作ニ過キス然ルニ器械ノ發明以來工業ノ景況一變シ
 テ工場ノ制トナリ製造場起リ其規模廣大ナリ此ノ如キ大規模ノ工場ニ對シテ
 ハ小仕掛ナル一箇人若クハ家内ノ工作者ハ到頭競争シテ勝ヲ制シ自己ノ生存
 ナ維持スルコト能ハス非常ニ困難ナル地位ニ陥リテ倒レ而シテ大規模ノ工場
 漸ク盛大ニ趣クノ已ムヲ得サル劇變ヲ見ルニ至レリ然リ而シテ此ノ大規模ノ
 工場ハ固有ノ性質上ヨリシテ年齢男女ノ區別ナク一切ノ労働者ヲ驅テ日夜過
 度ノ労働ニ就カシメタリ然レトモ其當初ハ國家モ亦此等幼工婦女工ノ有様ヲ
 知ラサルカ如ク極メテ冷淡視シタルカ故ニ毫モ國家ノ保護ヲ享クル望ナカリ
 シ加之ナラス特ニ労働者ノ同盟聯合ヲ禁シ以テ労働者ヲシテ自ラ助クルノ道
 ヲ失ハシメタルヲ以テ労働者ハ法律ヲ犯スニ非サレハ到底資本家ニ對シテ如
 何トモス可ラサル境界ニ陥レリ且ツ當時労働者ノ爲メニ設ケラレテ存在シタ
 ル労働證書ノ制ハ労働者ノ助トナラスシテ却テ之ヲ監督シ其舉動ヲ察知スル

ノ具トナレリ而シテ獨リ労働者ヲ保護スル効力ヲ有スルモノハ只雇ニ一千八百十四年十一月十四日ノ法律ニ於テ宗教上ヨリ日曜日ノ労働ヲ制限シタルト又一千八百十三年一月三日ノ鑛業條例ニ於テ拾歳以下ノ兒女ヲ地下ノ業務ニ使役スルヲ禁シタルノ二アルノミ此外絶テ労働者ヲ保護スルモノナシ此ノ如キ悲惨ノ有様ニテアリシ當時ニ在テモ労働者ノ利益ヲ代表スルモノ全ク之ナキニ非ス又爲メニ辯解スルモノモ之ナキニ非ス只多數人民ノ後援ヲ得サリシノミ而シテ其労働者ノ爲メニ利益ヲ圖謀シタル所謂代表者辯解者ハ雇々雇主社會ノ内外ニ於ケル學者慈善家ノ如キ限リアル種類ノ人々ニ過キス殊ニシスモンデイ氏ノ如キハ能ク當時ノ工業社會ニ於ケル弊竇ヲ看破シテ之ヲ著述シ兼テ下等社會ノ狀況ヲ救正スルニ頗ル熱心セリ又ミユルハウゼンノ工業協會ハ千八百二十七年ヲ以テ工場内ノ労働制限ニ關スル問題ヲ討議シ其後モ亦屢此ノ問題ヲ討議セリ又有名ナル道德學政治學々院ハ労働社會ノ身體並ニ精神上ノ實況ヲ調査センカ爲メ特ニヒラアーム氏ヲ地方ヘ派遣セリ而シテ同氏ノ報告書ノ一部分ハ一千八百三十九年ヲ以テ始メテ前ノ道德政治學院ノ出版ス

ル所トナレリ其後千八百四十年ニ至リ該報告書ハ完備シテ二冊トナリ世ニ公ニセラレタリ而シテ其書中ニ記載スル所ハ實ニ驚歎スヘキ事實ヲ含メリ故ニ其書ノ一タヒ世ニ出ツルヤ恰モ嚴冬風烈シキノ夜ニ於ケル失火ノ警鐘ノ如ク社會公衆ノ耳目ヲ鼓動セリ殊ニヒラアーム氏ハ工業ノ隆盛ナル地方ニ於ケル幼工ノ状態ヲ以テ嘗ニ幼工自身ノ不利益ノミナラス之カ雇主タル資本家ノ損耗ニシテ延テ國家全班ノ大患トナルモノナリト斷言セリ是ヨリ社會公衆ハ漸ク労働問題ノ忽諸ニ附シ去ル可カラサルヲ悟リ着々實效ヲ奏スヘキ運動ヲ始メタリ乃チ商業會議所工業會議所並ニ調停裁判所ハ之ニ關スル取調ヲナシ政府ハ其取調ニ基テ幼者ヲ保護スルニ法律ヲ以テセントシタリ是ニ於テカ一千八百四十年一月十一日一ノ法律案ヲ貴族會議ニ附シタリ此法律案ノ目的ハ唯政府ヲシテ十六歳以下ノ幼者ノ労働ヲ適宜ニ制限シ得ル權利ヲ有セシメントスルニ在リタリ而ルニ此法律案ノ討議中政府ハ斯ル労働社會ノコトニマテ立入テ干涉スルハ甚タ不可ナリト絶叫シ反對スルモノアリ又之ニ賛成スルモノ出テ、議場頗ル動搖セリ然レトモ一般ノ公衆ハ格別之ニ注意セサリシカ如シ

而シテ該政府案ハ非常ニ修正セラレ殆ント全ク其形ヲ變シテ漸ク翌年三月二十三日法律トナリテ公布セラレタリ今其法律ノ目的トスル所ノ重要ナル點ヲ舉クレハ凡ソ左ノ如シ

- 一 此法律ハ器械力ヲ用_レ并或ハ絶エス_レ火力ヲ使用シ又ハ一工場内ニ二十人以上ノ職工ヲ使役スルモノニ適用ス
- 一 前掲ノ場所ニハ八歳以下ノ幼者ヲ使役スルコトヲ禁シ八歳以上十二歳以下ノ幼者ハ一日八時十二歳以上十六歳以下ノモノハ十二時間以上使役スルヲ得ス
- 一 日曜日並ニ祭祝日ノ勞働ハ一切之ヲ禁ス但夜業ハ制限内ニ於テ之ヲ許ス
- 一 十二歳以下ノ幼者ハ必ス學校ニ通學セシメサル可カラス其ノ以上ハ教育證書ヲ有スレハ通學スルニ及ハス
- 一 政府ハ特ニ勅令ヲ以テ此法律ヲ適用スヘキ區域ヲ擴充シ又ハ種々ノ除外例ヲ設クルコトヲ得又特ニ健康若クハ其他有害ノ業務ニ關シテ特別ニ嚴格ナル規則ヲ設クルコトヲ得

一 政府ハ現ニ幼者ノ教育ヲ監督シ此法律ノ能ク實行セララル、ヤ否ヲ監察スルノ方法ヲ設クヘシ

一 以上ノ規定ニ背違スルモノアルトキハ罰金又ハ科料ニ處ス

以上説述シタル所ハ佛國ニ於ケル勞働者保護律ノ起原ナリ

第二節

前節ニ述ヘタル所ノ一千八百四十一年ノ法律ハ全ク其目的ヲ過マリ實際ニ適用ス可カラサルモノナリ故ニ之カ改正ヲナサ、ル可カラストノ説ハ已ニ其法律ノ出テタル當時ニ起レリ何トナレハ該法律中規定ノ十二歳以上十六歳以下ノモノニテ教育證書ヲ有セサルモノハ十二時間勞働ノ後尙ホ學校教育ヲ受ケサル可ラサルカ如キハ殆ント哄笑ス可キ規定ナリ又該法ノ適用範圍ノ區劃方法ニ就テ種々ノ苦情ヲ惹起シタルカ如キ又政府ノ此法律ニ依テ得タル特權ヲ利用セサルノミナラス工場ニ使役セラル、幼者ニ適スル學校ヲ設立セザリシカ如キ等ノ事故ヨリシテ終ニ該法律ヲ全ク無効ニ屬セシメタリ就中工場監察

ノ目的ヲ以テ新設セラレタル名譽官ノ如キハ毫モ其目的ヲ達スルコト能ハサ
 リシ加之ナラス當時ノ商務大臣カ殆ント信ス可カラサル程ノ過失ニ由テ名譽
 官タル工場監察官ノ不足ヲ補充シ以テ之ト競争シテ該法律ノ規定カ善ク實行
 セラル、ヤ否ヤナ觀察セシメンカ爲メニ設ケタル度量衡監査官ノ充分其用ヲ
 ナサ、リシカ如キハ最モ甚シキ失錯ト云ハサル可カラス政府ノ勞働者保護ニ
 關スル措置斯ノ如ク緩慢姑息ナルヲ以テ等閑ニ看過シ難シトナシ諸方ヨリ政
 府ニ向テ種々ノ要求ヲナシタリ是ニ於テカ政府ハ遂ニ一千八百四十七年ヲ以
 テ新ニ一ノ法律案ヲ提出シタリ此時貴族院ニ於テ其法律案ニ關シ冗長ノ議論
 種々ノ討議アリタル後其結果トシテ許多ノ修正ヲ加ヘ遂ニ一千八百四十八年
 二月二十一日ヲ以テ可決シタリ此法律案ハ幼者ノ半時間勞働制婦女ノ保護有
 給監査官等ノ規定ヲ包含シタルモノナリシヲ以テ若シ法律トナリテ世ニ出テ
 タランニハ勞働者保護律ノ上ニ非常ナル進步ヲ顯ハシタルコトナル可シト雖
 モ同年又復タ革命起リタルカ爲メ從來ノ立法事業ハ舉テ皆無ニ歸シタリ故ニ
 是ヨリ以後ノ沿革ハ更ニ創始スルノ有様トナレリ

チ容易ニ判別センカ爲ナリ商法第千四十五條第一項ニ云ク「破産者ノ資本ヲ分
 チ數個營業ヲナシタルトキハ各營業者ニ關スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團
 ヨリ優先權ヲ以テ辨償ヲ受クヘシト」
 商號ハ從來慣用シタル越後屋又ハ大丸ト云フカ如キ又ハ營業者ノ氏名例之ハ
 三井銀行ト云フ如キ其他如何ナル名稱ヲ用ユルモ法律上敢テ禁スル所ニ非ス
 即チ商法第二十四條ニ云ク「商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ通常ト
 スレトモ營業者ノ氏又ハ名ヲ以テスルモ妨ケナシト」是其商號ヲ撰擇スルハ商
 人ノ自由ナルコトヲ示シタルナリ然レトモ明治二十三年八月七日附ノ商法施
 行條例ノ規定ニ依レハ此點ニ關シテ聊カ制限アルニ似タリ即チ該條例ノ第二
 條ニ云ク「會社ニ非スシテ商業ヲ營ムモノハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルヲ得
 ス又從來之ヲ用ユルモノハ商法實施ノ日ヨリ三箇月以内ニ之ヲ除去スヘシ前
 項ノ規定ニ違背スルモノハ司法裁判所ノ命令ヲ以テ三十圓以下ノ過料ニ處ス」
 トアリテ一個商人ノ會社ニ類似スル商號ヲ用ユルコトヲ禁シタリ此蓋シ世ノ
 狡猾者カ商業界ニ於テ會社ノ實ナキモノヲ以テ會社ノ名義ヲ濫用シ因テ以テ

不正ノ利ヲ獲取セント企ツルノ惡弊ヲ防遏スル趣旨ニ出テタルモノナラン

第二節 商號ノ登記

商號ハ登記セサル可ラサルヤト云フニ必スシモ然ルニ非スシテ其登記スルト
否トハ全ク各人ノ隨意ナリ即チ商法第二十五條第一項ニ云ク「商號ノ登記ヲ請
ハント欲スルモノハ商業登記簿ニ登記ヲ受クルコトヲ得支店アルトキハ其支
店ニ付テモ亦同シ」ト然レトモ登記ヲ受ケサルトキハ其專有權ナキヲ以テ若シ
人アリ同一ノ商號ヲ使用シテ自己ト同一ノ商業ヲ營ミ爲メニ損害ヲ被ラシム
ルコトアルモ之カ救濟ノ途ナキナリ故ニ假令法律ニ於テ其登記ヲ命令セサル
モ自己ノ利害ニ關スルモノナルヲ以テ苟モ商號ヲ使用シテ誠實ニ商業ヲ營マ
ント欲スルモノハ速ニ登記ノ手續ヲナサ、ル可カラス而シテ商號ヲ登記シテ
其專有權ヲ得ルハ或一地域内ニ限ルヲ以テ若シ其地域外ニ於テ更ニ商號ヲ專
有セント欲セハ又其地域内ニ於テ之カ登記ヲ受ケサル可カラス今獨逸商法ニ
依テ見レハ其第十九條ヲ以テ各商人ニ必ス登記ヲ受クヘキ義務ヲ負ハシメ以

テ之ヲ怠リタルモノハ同第二十六條ニ依リ過料ニ處スヘキコト、セリ是ニ由
テ觀レハ獨逸ニ於テハ登記ハ強制ナリ然レトモ斯ル制度ハ少シク酷ニ失スル
ノ嫌アリ何トナレハ其登記ヲナスト否トニ因リ直接ニ利害ヲ感スルモノハ商
人自身ナルヲ以テ若シ其登記ヲ怠リ損害ヲ被ルコトアレハ是レ自ラ制裁ヲ受
クルノ理ニシテ法律更ニ罰スルノ要ナケレハナリ
登記ノ變更廢止ヲナス場合ニ在テハ必ス其登記ヲ受ケサル可カラス商法第五
條第二項ニ云ク「登記ヲ受ケタル商號ノ變更廢止ハ速ニ其登記ヲ受クヘシ」ト元
來此規定ヲ設ケタル所以ハ他ニ非ス商號ハ其登記ニ由テ始メテ專有權ヲ得ル
モノナルヲ以テ若シ其登記ヲ變更シ又ハ廢止シテ已ニ不用ニ歸スルモ猶ホ依
然トシテ抛弃シ置クトキハ他人ハ永ク之ト同一ノ商號ヲ使用スル能ハサルノ
不便アルカ故ナリ然レトモ我法律ニハ之ニ違反スルモノニ加フル制裁ノ規定
ナキヲ以テ假令商號ノ變更廢止ヲ登記セサルモノアリト雖モ亦如何トモスル
能ハサルナリ獨逸ノ法律ニハ商號ヲ登記セス又ハ其變更ヲナシ之カ登記ヲナ
サ、ルトキハ處罰スルコト、セリ「獨逸商法第二十七條此故ニ我商法ノ如ク假

令商號變廢ノ登記ヲ命スト雖モ其違犯者ニ科スル制裁ナキヲ以テ殆ント其效力ナキモノ、如シ

商號登記ノ效果如何ト云フニ商號ハ一度之ヲ登記スルトキハ同一ノ營業ニ關シ同一ノ地域内ニ於テ専用スルノ權ヲ有シ而シテ他人ヲシテ之ト同一ナル商號ヲ使用セシメサルノ權ヲ得ルモノナリ商法第二十六條ニ云ク「商號ハ登記ニ因リ同一ノ營業者ニ付キ一地域内ニ於テ其専用ノ權利ヲ取得シ他人之ヲ用ユルコトヲ得ス但本法施行以前ヨリ有スル商號ハ從來ノ營業ヲ變セサルモノニ限リ一地域内ニ於テ同一ナルモ妨ケナシ」ト本條ニ所謂一地域内トハ明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ニ規定セラレタルモノヲ云フ即チ其第一條ニ云ク「商法第二十六條第二十九條第二百十條ニ定メタル一地域トハ各町村ノ一區域ヲ云ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ云フ」ト然レトモ其均シク一區域ニシテ東京市ノ如キ廣大ナルモノアリ又地方ノ町村ノ如キ狹小ナルモノアリテ其區域ノ廣狹ハ到底同一ナル能ハサルナリ故ニ從來一區域内ニ於テ同一ノ商號ヲ使用シタルモノニハ此新法ヲ適用セサル

モノトス何トナレハ若シ強テ適用スルトキハ各自ノ既得權ヲ害シ遂ニ不正ノ結果ヲ生ス可ケレハナリ是第二十六條但書ノ規定アル所以ナリ

第三節 登記ノ讓渡

抑商號ハ商人ノ章標トナリ又信用ノ表示トナリテ花主ヲ誘致スルノ媒介トナルモノナルヲ以テ聲譽アル商號ハ假令其所有者變スルモ猶ホ價格ヲ保有シ殆ント一ノ財産ト其狀況ヲ同フスルモノナリ此故ニ商號ハ他ノ財産ト同シク之ヲ讓移ヲ爲シ得ルヲ以テ原則トス而シテ其之ヲ讓移シ得ル場合ニアリ曰ク相續ニ因ルモノ曰ク契約ニ因ルモノ是ナリ商法第二十七條ニ云ク「相續ニ因テ商業ヲ引受クルモノ又ハ契約ニ因テ商業ト共ニ商號ヲ引受クルモノハ第七十五條ニ規定シタル場合ヲ除ク外從前ノ商號ヲ續用スルヲ得」ト然レトモ其商號ヲ讓渡スニハ必ス營業ト共ニセサル可カラズ即チ第二十八條ニ規定シテ云ク「商號ハ其營業ト共ニスルニ非サレハ他人ニ讓渡スルヲ得」ト願フニ商號ナルモノハ素ト一ノ名稱ニ過キスシテ其名稱ノ價格ヲ有スルハ其實體タル營業ノ之

ニ相伴フカ故ナリ唯ニ商號ノミ單立シテ價值ヲ保有スルニ非サルナリ今夫レ
 吳服商ナル大丸ノ商號ヲ以テ牛肉店ニ冠スルモ將タ何ノ益アラシ又商號ヲ讓
 受ケントスルモノニ就テ見ルモ其之ヲ讓受ケント欲スル所以ノモノハ普ク世
 人ニ信用セラレタル商號ニ依リ多ク顧客ヲ誘引センコトヲ期スルニ在ルヤ必
 セリ然ルニ大丸ノ商號ヲ掲ケテ牛肉店ヲ開クモ本來大丸ノ名ハ吳服店トシテ
 世ニ知ラレタルモノナレハ毫モ顧客ヲ引クニ足ラサルヤ明カナリ是第二十八
 條第一項ノ規定アル所以ナリ然レトモ之ヲ實際ニ徵スルニ此ノ如キ事柄ハ敢
 テ法律ノ規定ヲ要セサルニ似タリ何トナレハ一地域内ト雖モ同一ノ營業ニ且
 サル以上ハ如何ナル商號ヲ用ユルモ敢テ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ若シ
 人アリ大丸ナル商號ヲ以テ牛肉店ヲ開カントスルニ臨ミ故サラニ必要ナク其
 價格ナキノ商號ヲ大丸ヨリ買取スルノ痴愚ヲナスモノアラサル可ケレハナリ
 而シテ草案編纂者其他本條ヲ註釋スルモノ、說ニ云ク若シ商號ノミヲ分離シ
 テ讓渡シ得ヘキモノトセハ其讓渡スルノ趣旨不正ノ目的ニ出テ、公衆ヲ欺瞞
 スルノ恐レアリト然レトモ若シ此說ノ如クナランニハ商號ハ一切讓渡ス可カ

ラサルモノトナサ、ル可カラス何トナレハ假令商業ト商號ト併セ讓渡スルモ
 ノトスルモ已ニ其讓受人ト讓渡人トハ同一ノ人ニ非スシテ其性質及ヒ金力ヲ
 異ニシ從テ商業上ノ技術モ亦同シカラサルヘシ然ルニ讓受人ハ讓渡人ノ名ヲ
 以テ商業ヲ營ミ而シテ世人ハ讓渡人ヲ信シテ讓受人ヨリ物品ヲ購買スルモノ
 トセハ如何是正ニ世人ヲ欺瞞スルモノニ非スヤ論者之ヲ欺瞞ニ非スト云フカ
 然レトモ其論法ヨリ推ストキハ等シク欺瞞タルヲ免レサルナリ故ニ予ハ信ス
 商號ヲ讓受クルモノハ敢テ斯ル瞞着心ヲ有スルニ非スシテ只顧客ヲ誘引セン
 カ爲メニ商號ヲ讓受クルモノトスルモ不可ナキナ
 營業ト商號ト併セテ讓渡シタルトキハ特別ノ契約ナケレハ營業上ノ殘務即
 チ債權債務得意先及商業帳簿等ヲモ附從シテ讓渡シタルモノトスルハ法律上
 ノ推測タリ即チ商法第二十八條第二項ニ云ク「營業ト商號ト併セテ讓渡スト
 キハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトヲ問ハス取引ノ仕殘リ債務得意先及
 ヒ商業帳簿モ共ニ讓渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス」下凡ソ
 營業ノ附屬品ハ契約者雙方ニ於テ悉ク明約ヲナシ之カ讓渡シ手續ヲナサ、ル

場合アリ何トナレハ營業ニ關スルモノ、中ニハ地所家屋器具商品等ノ有形物アリ又債權債務得意先等ノ無形物アリ而シテ營業ヲ讓渡スモノハ必スシモ常ニ此等附屬物件一切ヲ讓渡スルモノニ非ス然レトモ法律ハ契約者雙方ニ於テ特約セサル限りハ總テ讓渡シタルモノト看做ストセリ蓋シ此推測ハ普通意思ノ推測ニ基キタルモノナリ其故ハ商業ヲ讓受ケタルモノハ讓渡人ノ身ヲ繼續シタルモノニシテ第三者ハ讓受人ト取引スルコト猶ホ讓渡人ト取引スルカ如ク思惟シ而シテ既ニ讓渡人ニ對シ義務ヲ負フタルモノハ其繼續者タル讓受人ニ對シテ之ヲ履行シ又其讓渡人ニ對シ權利ヲ有シタルモノハ讓受人ニ對シテ請求スヘキハ普通ノ意思ナリト看做シテ不可ナケレハナリ其他商業帳簿ヲモ讓渡シタルモノトナスモ亦前ト同一ノ理由ニ基ケリ即チ從來ノ得意先及ヒ取引ノ方法又ハ債權債務ノアルコトヲ明知スルニハ商業帳簿ニ據ラサルヲ得サルナリ故ニ特約ナキ限りハ商業帳簿ヲ併セテ讓渡シタリト推測スルハ法律ノ精神ナリ而シテ一旦讓受ケタル商號ヲ繼續スルト將タ變更スルトハ全ク讓受人ノ意思如何ニ存スルヲ以テ其續用變更ハ法律ノ推測ニ何ノ影響ヲモ及ホ

スモノニ非ス是第二十八條第二項ノ規定アル所以ナリ然レトモ該條規定ノ推測ヲ惹起スニハ其商號ト營業トヲ併セ讓渡タル場合ナラサル可カラサルナリ一單獨ニ商號ノミヲ讓渡スコトヲ得サルハ前述シタルカ如シト雖モ營業ノ全部又ハ一部ノミヲ讓渡シタルトキハ其如何ナル物件ヲ讓渡人ニ留存スルノ趣意ナルヤ又如何ナル帳簿ハ讓受人ニ引渡スヘキモノナルヤハ必ス雙方間ノ契約ニ依テ明定セサル可カラス故ニ此點ニ關シテハ法律上豫シメ推測ヲナスノ要ナシ唯何等ノ契約ナキトキハ讓渡サ、ルモノト看做スヨリ他ニ途ナキナリ而シテ其營業ト商號トヲ併セ讓渡シタルトキト雖モ特別ノ契約ヲ以テ何某ニ對スル債權又ハ債務ヲ分離シテ自己ニ留存シ又何々ノ帳簿ハ分離シテ自己ニ留存ストナスカ如キハ契約自由ノ原則上有效ナルコト固ヨリ論ヲ俟タサル所ナリ然レトモ法律上營業ト商號トヲ併セ讓渡シタルトキハ讓渡人ハ債權債務其他一切ノ物ヲ讓渡シタリト推測スルヲ以テ若シ特約ヲ以テ或物件ヲ分離シテ讓渡シタルトキハ商號引受ノ通知又ハ廣告ノ中ニ其趣キヲ明示セサル可カラス何トナレハ若シ然セサルトキハ第三者タルモノハ法律ノ推測ニ據リ總テノ物

件ヲ讓渡シタルモノト看做シ讓受人ニ對シテ權利ノ執行ヲ請求スルコトアル
モ讓受人ハ之ヲ拒ムヲ得ス又讓受人ニ對シ義務ヲ履行スルコトアルモ讓渡人
ハ之ヲ如何トモスル能ハサルナリ是商法第二十八條第三項ニ於テ商號引受ノ
通知又ハ廣告ノ中ニ特約ヲ明掲セサルトキハ其特約ハ第三者ニ對シテ無効タ
リト明定セル所以ナリ

第四節 罰則

商號濫用者及ヒ商號讓渡ニ依テ他人ノ權利ヲ害スルモノハ各之ニ對スル制裁
アリ(商法三十一條)而シテ其制裁ヲ科スヘキ場合三アリ第一登記ニ依リ一地域
内ニ於テ得タル專用權ヲ濫用シタルトキ(商二六)第二取引ノ仕殘又ハ得意先等
ノ移轉シタルニモ拘ハラズ之ヲ奪ハレタルトキ(商二八ノ二)第三同營業ヲナサ
ル義務ヲ負擔シナカラ十箇年内ニ其一地域内ニ同營業ヲナシタルトキ(商二
九)而シテ被害者ハ前述ノ各場合ニ於テ第一ニ加害行為ノ停止ヲ要求シ得ヘク
第二ニ既ニ損害ヲ被リタルトキハ其賠償ヲ要ムルヲ得ヘシ此規定ハ本ト普通

民法上ノ原理ニシテ特ニ此ニ明言セサルモ自ラ炳然タル所ナリ例之ハ商號ヲ
濫用スルモノアレハ之ヲ禁止シ又得意先ヲ奪フノ所爲アルトキハ之ヲ停止シ
或ハ是ニ由テ利益ヲ收メタルトキハ辨償セシメ或ハ同營業ヲナサ、ル義務ヲ
負擔シナカラ之ヲ守ラサルトキハ其地域ト年期ノ制限ヲ守ラシムルカ如キ要
スルニ盡スヘキヲ盡サス營ム可ラサルヲ營ミ用ユ可ラサルヲ用非タルトキハ
之ヲ禁止又ハ停止シ或ハ履行セシムル等ハ皆明瞭ノコトニシテ苟モ此等ノ所
爲ニ因テ損害ヲ釀シタルトキハ之カ賠償ヲナサ、ル可ラサルハ勿論ナリトス

第七章 商業帳簿

凡ソ商業帳簿ノ用ハ商人タルモノ隨時自己商業ノ景況ヲ詳知スヘキ一方法タ
ルニ在リ又訴訟ヲナスニ當リ自己又ハ他人ノ爲メ證據方法トナリ或ハ破産ノ
場合ニ於テ破産人ニ破産ノ罪アルヤ否ヤヲ鑑別スルノ用トナルモノニシテ實
際必要ナルヤ喋々ノ辯ヲ俟タサルナリ故ニ歐洲各國皆之カ制度ヲ設ケサルハ
ナシ而シテ唯其差異アリトナス所ノモノハ法律力カ之カ干涉スル程度ノ多少ト

其規定ノ寬嚴如何ニ在ルノミ
 商業帳簿ニ關スル法規ノ寬嚴ハ歐米諸國中多少差違アリト雖モ之ヲ大別スレ
 ハ(一)英米主義(二)佛法主義ノ二ニ過キス即チ英米主義ニ在テハ商人ヲシテ特別
 ノ帳簿ヲ作り一定ノ計算ヲナスカ如キ義務ヲ負ハシムルコトナリ從テ帳簿ヲ
 調整セサルコトアルモ敢テ責罰ヲ加フルコトナシ唯其帳簿ヲ整備セサルニ於
 テハ自然自家ノ不利益トナルヲ以テ間接ニ帳簿ヲ調整セシムルノ主義ヲ取レ
 リ例之ハ帳簿ノ記入ヲナサ、ルトキハ破産法上其モノ、不利トナリ或ハ詐欺
 ノ意思ヲ以テ其記入ヲナサ、ルトキハ詐欺破産ノ刑ヲ科セラル、カ如シ次ニ
 佛法主義即チ佛蘭西法及ヒ之ニ摸倣シタル諸國ノ法律ニ在テハ細密ナル規則
 ヲ設ケ商人ヲシテ之ヲ遵守セシメ若シ之ヲ遵守セサルトキハ各制裁ヲ科スル
 コト、セリ而シテ就中最モ嚴重ナル規則ヲ設ケタルハ西班牙商法ニシテ又最
 モ寬裕ナルハ獨逸商法ナリ我國ノ商法ハ稍獨逸風ニ則リタルカ爲メ佛法ニ比
 スレハ大ニ寬裕ナル所アリ此蓋シ我國ハ古來商業帳簿ノ制度ナク其創始ニ繫
 リタルヲ以テ或ハ民情ニ適セサルヤヲ慮リ多少舊慣ニ據リタルモノナラン

第一節 商業帳簿ヲ備フルノ義務

商人ハ商業帳簿ヲ備ヘ以下ノ事項ヲ記入スヘキ義務アルハ商法第三十一條ニ
 明定セル所ナリ第一日々取扱ヒタル取引ハ其商事タルト民事タルトヲ問ハス
 總テ之ヲ記載セサル可カラズ但小賣ノ取引ハ此限ニ非ス第二日々ノ貸借即チ
 貸方借方ヲ記載セサル可カラズ第三商品ノ請取又ハ引渡ヲ記載セサル可カラ
 ス但日々ノ小賣ハ此限ニアラス第四支拂及ヒ請取ノ金錢ヲ記載セサル可カラ
 ス但商業上ニ關スルモノ而已ニ限ラス第五家事費用ノ月額總計ヲ記載セサル
 可カラズ此家事費用ハ敢テ商業上ノ關係ナキヲ以テ日々詳記スルヲ要セス唯
 其煩雜ヲ省ク爲メ毎月一纏トシテ其總額ヲ記入スレハ足レリ法律上以上ノ事
 項ヲ商業帳簿ニ記入セサル可カラズトナシタル所以ハ要スルニ一ハ破産ノ弊
 ヲ豫防センカ爲メ商人各自ノ經濟ヲ整頓セシメ且其財産ノ隱匿等ヲ防カント
 ノ趣意ニ出テ一ハ破産ノ後其財産ノ有無ヲ容易ニ明知セシムルノ趣意ニ出テ
 タルモノナリ故ニ若シ商人ニシテ此規定ニ違背シ前掲ノ事項ヲ帳簿ニ記入セ

サルトキハ商法第千五十一條ノ制裁ヲ加エラル、モノトス即チ同條ニ云ク「破
 産宣告ヲ受ケタル債務者支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲クル行
 爲ヲナシタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス」第一一身又ハ一家ノ過分ナル費用博
 奕、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因テ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ債務ヲ負ヒ
 タルトキ第二支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲナシ支拂資料ヲ
 減少シタルトキ第三支拂停止ヲナシタル後支拂又ハ擔保ヲナシテ或債務者ニ
 利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ第四商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀
 滅シタルトキ第五破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第千三條第二項ニ
 規定シタル義務ヲ履行セサルトキト而シテ佛法ニ依レハ前述ノ第三十一條規
 定ノ事項ハ一々別箇ノ帳簿ニ記載スヘキモノトスレトモ我商法ニ在テハ帳簿
 ハ必スシモ別箇ナルヲ要セスシテ唯、其事項ヲ明知シ得ヘケレハ足レリトス約
 言スレハ營業ノ慣例ニ從ヒテ記載スレハ則チ可ナリ而シテ其營業ノ慣例ニ從
 フトハ例之ハ酒屋又ハ魚屋ハ其業相當ノ帳簿ヲ備ヘ又銀行會社ノ如キハ其營
 業ニ關スル相當ノ帳簿ヲ備ヘサル可カラサルカ如シ故ニ商人タルモノハ普通

有スル帳簿ノ外漸次種々ノ帳簿ヲ整備セサル可カラス而シテ各營業部類ノ慣
 例ニ從ヒテ完全ナル帳簿ヲ備フルハ實ニ商人ノ責ナリ
 此ニ聊カ疑義ノ存スルハ我商法ノ確定法文(第三十一條)ニ完全ナル帳簿ヲ備フ
 ルノ責アリトアリテ其草案ニハ遺漏ナク帳簿ニ記入スヘシトアルコト是ナリ
 顧フニ此遺漏ナク帳簿ニ記入云々ト反譯スヘキヲ誤テ法文ノ如ク譯シタルニ
 非サルカ若シ果シテ法文ノ如ク必ス完全ナル帳簿ヲ作ラサル可カラサルモノ
 トセハ不完全ナル帳簿ヲ作リタルトキハ如何第千五十一條ノ制裁ヲ受ケサル
 可カラサルカ而シテ其商業帳簿ノ完全ナルヤ否ヤヲ判定スルハ固ヨリ裁判官
 ノ職權ニアルヲ以テ甲判事ハ完全ナリトスルモ乙判事ハ不完全ト認ムルカ如
 キコトアリテ商人タルモノハ一ニ裁判官ノ見解如何ニ因リ或ハ過怠破産ノ刑
 罰ヲ受ケ或ハ之ヲ受ケサルカ如キ奇怪ノ結果ヲ生スルハ決シテ尠ナカラサル
 ヘシ故ニ歐文草案ノ遺漏ナク明瞭ニ記入スヘシ云々ノ趣意ヲ誤譯シタルモノ
 トナスコト至當ナラン乎

商業帳簿ニ記入スヘキ事項ハ已ニ述ヘタリ而シテ其之ヲ記入スヘキ方法如何

ト云フニ佛國ニ於テハ法律一定ノ帳簿ヲ指定シ且一定ノ法式ニ從テ記入スヘキコトヲ規定セリト雖モ我國ノ法典ハ之ニ反シ此點ニ於テハ甚タ寛大ニシテ商業ノ種類又ハ事物ノ便宜ニ從ヒ數箇ノ帳簿ニ記入スルモ又一箇ノ帳簿ニ記入スルモ其取扱上ノ慣習ニ依レハ足レリトシ極メテ便利ヲ主トセリ然レトモ取引ノ實況及ヒ詐欺ノ有無ヲ明知セント欲スルニハ其記入方整齊且明瞭ナラサル可カラサルヲ以テ法律ハ單ニ整齊且明瞭ニ記入スヘキノ義務ヲ負ハシムルノミ而シテ其整齊且明瞭ニ記入スルトハ改竄塗抹等ノコトナク順序正シク遺漏ナキ様ニ記入スルヲ云フ法律己ニ此ノ如キ義務ヲ負擔セシメタル以上ハ若シ其帳簿ノ記入方整齊且明瞭ニアラサレハ商人ハ夫レタケノ責任ヲ負ハサルヘカラス即チ自ラ曖昧ナル文字ノ証明ヲナスノ責任ヲ負ヒ又其不明瞭ナル點ヨリ生スル所ノ不利益ナル結果ハ自ラ負擔セサル可カラサルナリ蓋シ記入方ノ整齊且明瞭ナルヲ要スルハ特リ商業帳簿ノミニ限ラス一般ノ證書ニ在テモ亦然ラサルヲ得ス如何トナレハ證書面ニ改竄塗抹等ノ跡アルトキハ人ノ之ニ對シテ疑念ヲ起スヤ必然ニシテ此疑念ヲ解クハ其改竄塗抹ヲナシタルモノ

ルニ矛盾スル如キ皮相アルモ國罪ヲ例示シタル最終ニ同シク許々太久ト云フ語アルヲ以テ之ニ對シタルモノナリト云フ說多數ヲ占ム

國津罪ヲ列記シタル中、生乃膚斷トハ他人ヲ殺傷スル義、死乃膚斷トハ屍體ヲ毀損スル義ナリ、白人ハ和名抄ニ之良波太俗ニシロコト名クル皮膚病アル者胡久美ハ贅肉(和名抄ニ阿萬之々)アル不具者ヲ謂フ、病者不具者ハ共ニ神ノ不快トスル所ナルヲ以テ罪ト成ル如ク信セシニ似タリ、已母犯留罪、已子犯留罪トハ亂倫ノ配合ヲ指スモノニシテ古事記仲哀天皇ノ條ニ……上通婚下通婚……トアル是ナリ、母與子與犯罪ハ妻ノ先夫ノ女ヲ姦スル場合ヲ云ヒ、子與母與犯罪トハ妻ノ實母ニ通スル場合ヲ謂フ、畜生犯罪トハ天然ニ反シ異性ノ動物ニ淫行スルヲ謂フ同シク古事記仲哀天皇ノ條ニ……馬婚牛婚鷄婚犬婚之罪ト謂ヘル是ナリ、昆虫乃災、高津神乃災、高津鳥乃禍トハ虫類落雷鳥類ノ爲メニ負傷出血シタルヲ謂フ此ノ如キ災害ノ罪トナルハ出血シテ身ヲ穢スニ因リ神意ニ不快ヲ招クト云フニ有ルモノ、如シ畜生仆志トハ獸類ヲ殺傷スル所爲ヲ謂フ、蠱物爲罪ハ呪詛スル罪ナリ、終ノ許々太久ト云フ語ハ多キヲ意

味ス爰ニハ等ト云フ文字ニ相當シ國津罪ハ其大凡ヲ舉ゲテ例示シタルヲ明
カニスルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ天罪モ國罪モ上代ノ思想ニ於テ罪タリシ點ハ同一ナリシ
ヤニ思ハル罪質ニ差異ナカリシニ似タリ下ニ述フル三點ニ因リテ知ル可シ曰
ク(一)人類ハ神意ニ因リテ產出ス即チ神ハ地水火風ノ四行ヲ合セテ人體ヲ造リ
之ニ靈魂ヲ配シテ生命アルニ至ラシム故ニ人ノ性ハ善ニモ非ス惡ニモ非ス但
シ神意ニモ好嫌アリテ若シ其好ム所ノミチ身ニ具フル者アレハ善ノ靈魂ヲ働
カスカ故ニ善行アリ幸福ヲ享クヘキモ若シ其嫌フ所ヲ身ニ具フルモノナレハ
惡ノ靈魂ヲ働カスカ故ニ惡行アリ災厄ヲ受クヘシ(善ノ靈魂ハ直日御魂、惡ノ靈
魂ハ禍日御魂ト謂フトソ)(二)然ラハ神ハ何ヲ嫌フカ、不潔不具ヲ嫌フ、爰ヲ以テ身
ニ汚穢アリ不具ノ箇所アレハ神ハ之ヲ厭ヒテ惡ノ靈魂ヲ働カスカ故ニ人ハ惡
事ヲ働キ惡鬼邪神ハ處ヲ得、友ヲ得テ災害ヲ降ラス然レトモ惡事ヲ働キタルモ
ノ、身邊ニ附著シタルモノヲ棄テ即チ不潔物ヲ棄テ、身體ヲ洗ヒ(祓、禊、禴、禨)
起ル所以ニシテ祓ハ拂棄ナリ禊ハ身滌ナリ神ノ好ム物ヲ供スレハ善ノ靈魂ヲ

働カシム故ニ惡神潛ミ人ハ善行ヲ爲スニ至ル罪ハ要スルニ豆々之罪ノ節語略

ニシテ不潔、不具等神ノ嫌フニ因リ慎ムヘキ事實ヲ謂フ之ヲ慎マサレハ惡ノ靈
ニ支配セラレテ惡行ヲ爲ス惡行ヲナシタルモノ、身邊ニ在ルモノハ穢ル穢ハ
復惡行ヲナサシムル魂ヲ働カスニ至ル原因トナル(三)若シ夫レ神ノ嫌フニ因リ
慎ムヘキ事實カ盡ク罪ナラハ何故ニ之ヲ天罪國罪ニ別チタルカ此區別ハ延喜
年間藤原忠平公等カ敕ヲ奉シテ格式ヲ選フ時假ニ設ケラレタル用語ナリ忠平
公カ區別ノ標準トセラレシハ古文書ニ嘗テ素盞鳴尊カ高天原ニ於テ犯シタル
コトアリト傳フル種類ノモノト國土ニ於テ犯シ初メタリト思ハル、種類ノモ
ノトニアリ故ニ大祓ノ詞ノ中ニ天罪ノ名ヲ付シタル犯罪ハ古事記等ニモ素盞
鳴尊ノ品行中ニ見ユル件ノミナリ此區別ヲ以テ神代ニモ既ニ採用サレ甲乙罪
質ヲ異ニスルモノトスルニハ何等ノ根據モ無シ之ヲ思ヘハ現行刑法原論ノ所
論ノ如ク天罪國罪ハ後ニ宗教ト法律トヲ分離セシムル機會ヲ與ヘシモノニハ
非サルヘシ)

(二十四) (二)祓除ト云フ古制ハ前段ニ述フル犯罪ノ觀念ニ牽連シテ起レルモノ

ナリ我國ノ元始時代ニ在リテハ單ニ惡行ノミナラス不潔、災害、疾病、不具、等ノ事實モ神ノ好マサル所ニシテ神ノ好マサル行爲並ニ事實アル者ハ即チ罪アル者ナルカ故ニ一方ニ於テ神ノ不潔不快トスル物ヲ捨テ一方ニ於テ神ノ賞美満足スル物ヲ供フレハ罪即チ惡行災害ナキニ至ラント結論シ爰ニ被除ノ制ヲ發生セシメタルモノ、如シ(勿論神代ニ神カ其例ヲ示シ後世ノ被除ハ只之ニ倣フト認メラレシナリ)故ニ被除ニ二種アリ惡ノ被除ハ不潔ヲ棄ツルヲ目的トシ善ノ被除ハ神ノ歡心ヲ迎フルヲ目的トシ罪アル者即チ神ノ不快ヲ招キタル者ヨリ物品ヲ徵集シテ一部ヲ拋棄スルノ用(即チ惡ノ被具^{ハラヒツセ})ニ充テ一部ヲ神ニ供スルノ用(即チ善被具^{ヨシハラヒツセ})ニ充テタルナリ其罪アリシ結果トシテ物品ヲ徵集シタルノ一點ハ刑罰ノ性質ヲ具フルモノト云フヲ得ヘキモ之ヲ以テ直チニ贖罪制度ト云フハ稍、妥ナラス後ノ贖罪制度ヲ起シタル源ト云フモ不妥當ナルカ如シ(第二期贖銅ノ性質ノ説明ヲ參照セヨ)元始時代ニ在リテハ此ノ如キ被除ノ法ヲ以テ神ノ意ヲ滿タスコトヲ得從ツテ天下無事ナルヲ得タルハ他ナシ社會ノ組織並ニ關係單純ニシテ爲ス可カラスト認ムルコト少カリシニ因ルト雖モ時代ナ下ルニ

從ヒ交通頻繁社會的關係次第ニ複雜トナリ神ノ好嫌ハ昔ニ變ラサリシナルヘキモ其意ヲ滿スノミ(即チ被除ノ法ヲ行フ)ニテハ社會ノ生存ヲ維持スル克ハサルニ至リ漸次被除ノ傍普通ノ身體刑、生命刑、財產刑、自由刑、榮譽刑ヲ適用スルノ已ムヲ得サルモノ生シ延曆ノ大政官符ヲ以テ善ノ被除ヲ廢セシヲ見ル但シ上古ニ在ツテ被除用ノ物品ヲ徵シタルハ主刑ノ性質ヲ負ヒ後(延曆以後)ニハ重キ罪ニ對シ此外ニ常刑ヲ附加シ終ニ物品ヲ拋棄スルト云フ主旨ヲ失フト共ニ單純ナル財產刑トナリシモノトス(古事記、古事記傳、大被執中抄、大被後釋、同後々釋、祝詞考、祝詞正解、神祇志料、大日本史刑法史參照)

(二十五) (三)我國上代ニ在リテハ罪即チ神意ニ反スル事實アレハ被除ヲ爲スヲ要シ從ツテ被具ヲ提出スルハ刑ノ性質ヲ具ヘタルカ如ク思ハル然レトモ被除ノ外ニ普通ノ體刑若クハ財產刑無カリシカ此點ハ隨分必要ナル研究ナリ蓋シ社會幼稚ニシテ公權尙ホ微弱ナルトキハ一家一族ノ長刑罰權ヲ握リ其意ニ反スルコトハ罪ト成リ其制裁トスル手段ハ刑罰ノ性質ヲ有スルモノ、如シ若シ此點誤ナクハ神代ニ伊邪那岐尊カ蛭子ヲ葦船ニ入レテ流シ迦具土神ノ首ヲ斬

リ給ヒシ如キハ祓除ノ外ニ刑罰並ヒ行ハレタリト云フモ大過ナカラシカ其他
 伊邪那美尊ニ絞殺云云ノ語アリ素盞鳴尊ノ狼籍ニ對シ群神カ祓除ノ爲メニ祓
 具ヲ徵シ其鬚手足ノ爪ヲ切拔カシメ神夜良比夜良比放逐タル如キ何レモ刑ノ
 性質アリト云フヲ得ン而シテ皇祖人極ナ肇建シ給ヒテヨリ祓除ノ傍、絞、斬、流、逐、
 擊、跡ノ諸刑並ヒ行ハレタルハ疑フ可カラサル事跡ナリ故ニ現行刑法原論ノ如
 グ「當時……犯罪ヲ以テ惡魔ノ所爲トシ刑罰ヲ以テ惡魔ヲ除去スル者ト思惟シタ
 ルカ故ニ未タ生命刑身體刑等ノ存在スルモノナカリシ……」ト云フハ甚タ不妥
 當ナリト確信ス

〔二十六〕〔四〕今ヤ第一期ニ付キ史傳ニ存スル法制ノ大意ヲ概言スヘキ位置ニ達
 セリ先キニ述フル如ク歐洲ノ刑制ハ復讐主義ニ起リ一變シテ宗教主義トナル
 ヤニ思ハル所謂復讐主義ハ被害者ノ怨恨ヲ晴ラスト云フ思想ニ基因スルカ故
 ニ日耳曼人ノ社會ニ盛大ナ見タリシ贖罪制度ハ仍ホ復讐主義ノ一體様ト見ル
 ナ得何トナレハ歐羅巴ノ贖罪制度ハ加害者ヨリ被害者ニ財產ヲ與ヘテ被害者
 之ヲ諾セハ怨恨ヲ散シ仇ヲ報スルコトナキ風俗ニ起リ一變シテ社會カ被害者

ナシテ強ヒテ贖物ヲ諾セサルヲ得サルニ至ラシメ再轉シテ加害者ハ被害者ニ
 贖物ヲ與フル外ニ其復讐ヲ免レ得タル社會ノ保護料ヲ支拂フ義務ヲ生シ終ニ
 保護料ノミヲ拂フニ至レルヲ以テナリ然レトモ我國太古ノ祓除ニ付キテモ其
 他ノ刑罰ニ付キテモ被害者ノ怨恨ヲ晴ラスト云フ思想ハ一點モ無カリシナリ但
 シ少クモ當時ノ犯罪ハ總テ神意ニ反スルニ因リテ成立テ從ツテ神ノ怨恨ヲ晴
 ラスト云フ造化復讐主義ト認ムル克ハサルカ惟フニ上代ハ人間ノ惡行ヲ働ク
 事實ヲ以テ既ニ先ニ不潔汚穢アリテ神ニ反シタル結果ト看做セルカ故ニ之カ
 爲メニ祓除ノ具ヲ出サシムルハ敢テ神意戻逆ノ應報ト認メス將來神ノ不平ヲ
 招カサルヲ目的トナシタルモノ、如シ論シテ爰ニ至レハ我國上古ハ一點モ復
 讐主義ノ行レタル事跡無ク開闢ノ初メヨリ宗教主義ニ支配サレタルヲ知ルニ
 足ラン

第一期ハ不文宗教主義ノ刑制行ハレタリ即チ如何ナル所爲若クハ事實カ犯罪
 トナルカ犯罪ト成ル所爲若クハ事實アルトキハ之ニ如何ナル刑罰ヲ加フヘキ
 カノ二點ハ 天皇若クハ其委任ヲ受ケ奉リシ者カ各場合ニ付キ判斷ヲ下サレ

シナリ而シテ其法理ヲ宗教主義ト云フ所以ハ(一)普通ノ刑罰ト或ハ併ヒ或ハ獨立シテ被除ノ具ヲ徵セシコト(二)犯罪ハ神意ニ反スル所爲若クハ事實ト認メタルコト(三)治罪ノ手續ニ探湯盟神(和名抄區訶陀智)ト云フアリ或ハ斧ヲ火色ニ燒キテ掌ニ置キタル事迹(日本書紀允恭天皇ノ條)アルコトノ三點ニアリ故ニ我國ノ刑法史上ノ宗教主義ノ時代ト歐羅巴ノ宗教主義ノ時代トヲ對照スルトキハ彼ニ於テ僧侶カ裁判官タリシコトアルモ我ニ於テ神祇官ハ裁判ナリシコト無キヲ注意セサル可カラス(被除ハ中臣氏之ヲ司リ處刑ハ反賊征討ト共ニ物部氏之ヲ掌レリ)此一點ハ後ニ宗教ト法律トノ分離ヲ或點マテ獎勵シタルナキヲ保セス次ニ神武以來被除ノ外ニ絞斬流拏黥贖ノ普通ノ刑ノ適用漸次其範圍ヲ汎クセシヲ記憶スヘシ古制ノ贖罪ト被除トノ異ナルハ被具トシテ財物ヲ徵スルハ神ニ供スル主旨ナルモ贖物ヲ徵スルハ財ヲ納メシメテ官ノ所得ト爲スノ主旨ニ出ツルニ在リ贖物ハ時ニ獨立ノ財產刑トナリ時ニ生命身體ノ刑ノ換刑タリシモノトス(其證トシテ日本紀雄略天皇ノ條ヲ見ヨ齒田根命ハ被具ヲ納メ別ニ贖物ヲ出シタルノ記アリ……………)而シテ一氏一族ノ長ハ刑罰權ヲ握レリ(二)

能ク一國主權ノ性質ニ適合シ且最モ各國相互ノ便宜ニ適合スルモノナリト獨逸ノヅヰッテル氏ノ說ノ如キ是ナリ然レトモ動産ヲ以テ所有者ノ本國法ニ從ハシムルト云フ說モ亦多少其理由ノ見ルヘキモノナキニアラス有名ナル伊太利國際法學者マンチニ一氏ノ曰ク動産ヲシテ其所在地ノ法律ニ從ハシムルハ近世ニ至リテハ反テ危險多キモノト云ハサルヘカラス何トナレハ現時ニ於テハ動産ノ價值ハ甚タ重要トナレルノミナラス交通運輸ノ便大ニ發達シタルヲ以テ動産カ各國間ニ移轉スルハ極テ迅速トナレリ即チ歐羅巴大陸ノ如キハ僅々ノ時間ニ於テ數國ヲ通過スルコトヲ得ルカ故ニ勢ヒ動産ノ移轉スル毎ニ諸種ノ法律ニ從ハサルヘカラサルノ結果ヲ生ス加之ナラス動産ノ性質トシテ或一定ノ時間内一所ニ定在セシムルハ決シテ容易ノコトニアラサルカ故ニ動産ニ對シテハ其所有者ノ本國法ヲ適用スルノ外他ニ適當ナル方法ヲ發見セスト云フニアリ我法例起草者モ亦曰ク動産不動産ニ關スル法律ハ所謂物ニ關スル法律 Statute of things ニシテ物ニ關スル法律ノ屬地法ナルハ主權ノ原則ニ基キタルモノナリト云フハ正確ノ論ト云ヒ難シ何トナレハ主權ハ純一不可分ノモノニシテ

一國ノ領土内ニ外國法ヲ適用スルハ主權ノ純一不可分ヲ犯スモノナルカ故ニ自國ノ法律ニヨラサルヘカラストハ甚タ其意ヲ得サルノ論ニシテ若シ斯論法ヲ以テ推究スルトキハ獨リ物ニ關スル法律ノミナラス人ノ身分及ヒ能力ニ關スル法律ト雖モ亦外國法ヲ適用スルコト能ハサルモノト云ハサルヘカラスト故ニ主權ノ原理ニ依リテ動產不動産ヲ所在地ノ法律ニ從ハシムルハ實ニ其穩當ノ論ト云フヲ得ス然ラハ即チ如何ナル理由ニヨリテ如何ニ區別ス可キカ他ナシ財產ノ性質ニヨラスシテ果シテ其法律ハ社會ノ權利ニ關スルモノナルカ將又吾人ノ利益ニ關スルモノナルヤチ區別ス可キノミ即チ社會ノ權利ニ關スル場合ニ於テハ所有者ノ本國法ヲ適用スヘキモノナリ故ニ動產ニ關スル法律ハ原則トシテハ所有者ノ本國法ヲ適用スル屬人法ナリ何トナレハ動產ニ關スル法律ハ一般ニ利益ニ關スルモノナルヲ以テナリ之ニ反シテ不動産ニ關スル法律ハ原則トシテハ所在地ノ法律ニヨリテ支配セラル、モノナリ何トナレハ不動産ニ關スル法律ハ一般ニ公益ニ關スルモノナルヲ以テナリ云々此ノ主旨ニヨリテ我法例起草者ハ動產不動産ニ關シテ其規定ヲ異ニシ一チ屬人法トシ他

チ屬地法ト爲セリ然レトモ確定法文ハ斯說ヲ採用セスシテ兩者ヲ以テ均シク屬地法トセリ今一言ヲ以テ之ヲ掩ヘハ動產ノ價值ハ非常ニ増加シテ反テ動產ヨリモ重要視セラル、今日ニアリテハ不動産ト均シク所在地ノ法律ニ從フヘキモノトスルノ其所在國ニ取リテハ最モ利益ナルコト疑ナシ其實益アルノ一理由ヲ以テスルモ亦之ヲ説明スルニ餘アル可キナリ
 動產不動産ニ關スル法律トハ即チ物ニ關スル法律トハ財產ニ關スル法律ニシテ財產ニ關スル法律ハ其範圍極メテ廣大ナリ試ミニ我民法ニヨリテ之ヲ見ルモ直接若クハ間接ニ財產ニ關係ナキ條項ハ殆ントアラサルナリ人ノ身分及ヒ能力ニ關スル法律ト雖モ均シク間接ニ財產ニ關係ス然レトモ身分能力ニ付テハ既ニ第三條ノ規定スル所ニ從ヒテ屬人法ナリ又財產ノ得喪移轉ノ如キ財產取得編中ニ規定スル處ノモノモ亦專ラ財產ニ關スルモノナリ然レトモ取得編中相續及ヒ遺贈ニ付テハ本條第二項ニ於テ被相續及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フト規定シ且又賣買交換代理會社契約其他一般合意ニ關シテハ第五章ニ規定アルヲ以テ本款第一項ノ目的トスル所ハ一見其包括スル所甚タ廣大ナルカ如シ

ト雖モ實際其範圍ハ極メテ狹隘ノモノニシテ一言スレハ財產即チ權利ノ目的物ヲ指定シタル法律ヲ指示シタルモノト云フコトヲ得可シ例ヘハ動產不動產ノ別、融通物不融通物ノ別ノ如キ所有權、用益權、地役權、賃借權ノ如キ物權或ハ又時効ノ如キ抵當先取特權ノ如キ擔保ヲ定メタルモノヲ云フ然ルニ或論者ハ本項ノ規定ヲ非難シテ曰ク本項ノ目的トスル所既ニ斯ノ如クナリトセハ孰レモ公益ニ關スルモノナリ公益ニ關スルモノニ付テハ後ノ第十四條ニ於テ汎ク明言スル所ナルヲ以テ此點ヨリ見レハ本項ハ實ニ無用ノ條文ト云ハサルヲ得スト

若シ夫レ動產不動產ニ關スル法律ハ悉ク公益ニ關スルモノナランカ實ニ論者ノ言ノ如ク第四條第一項ハ無用ニ屬スヘシト雖モ動產不動產ニ關スル事項ニハ私益ニ關スルモ公益ニ關セサルモノアルヲ如何セン動產ニ付テハ言フ迄モナシ不動產ニ關スル事項ニテモ例ヘハ抵當ヲ不可分ナリトスル規定ノ如キ是レ當事者ノ意思ヲ推測シテ定ムルモノナリ之ヲ可分トスルモ爲メニ社會ノ利益ヲ害スヘカラス現ニ斯ノ如キ性質ノモノアルニ若シ第四條ノ規定ナク單ニ

第十四條ノミナランカ公益ニ關セストシテ當事者ノ本國法ニ從ハサルヲ得サルニ至ルヘシ而シテ之ヲ判別スルハ困難ナルヨリ立法者ハ特ニ第四條第一項ニ於テ凡ソ動產不動產ハ所在地法律ニ從フヘキコトヲ明記セルナリ

第四條第二項ニ曰ク然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ相續遺贈ハ動產不動產ニ關スル法律ニ屬ス故ニ之ヲ第一項ト對照シテ第二項ハ正ニ第一項ノ法則ニ對スル例外タルヲ知ル可シ然レトモ何故ニ本國法ニ依ラシムルヤ他ナシ(第一)相續ナルモノハ個々特定ノ財產ヲ一人ヨリ他人ニ移轉スルモノニ非スシテ財產ノ包括即チ資産ト稱スル一種ノ無體物ヲ移轉スルモノナルカ故ニ其物ノ所在地ヲ論スヘキニアラス(第二)且夫レ相續法ナルモノハ被相續者ノ意思ヲ推測シタルモノニ外ナラス被相續者カ明ニ此意思ヲ表示シテ死後ノ財產ノ處分ヲ爲スモノ遺贈ニシテ法律カ被相續者ノ普通一般ノ意思ヲ標準トシテ遺產ノ處分方ヲ定メタルモノハ即チ相續法ナリトス相續遺贈ノ基ク所之ニ在リトセハ之ヲ以テ本國法ニ從フトナシタルハ相續遺贈其モノ、性質ニ於テ至當ノコトタル可キナリ(第三)況ンヤ外國人ノ相續ニ關

スルニ尙ホ我法律ヲ以テ支配スルモ殆ント其利益ナキニ於テヤ例ヘハ佛國ハ財產相續法ノ國ナルニ佛國人ニ日本法律ニ從ヒテ家督相續人ヲ設定セシムルカ如キハ無用ノコトナリトス

第三 合意ニ關スル法律

適法ニ成立シタル合意ハ法律ニ均シキ效アリ合意ニ關シテハ當事者ノ意思ニ一任シ法律ハ敢テ之ニ干涉セストハ今日一般ニ認メラレタル所謂合意自由ノ原則ニシテ要スルニ合意ニ關スル法律ハ普通ノ場合ニ就テ當事者ノ意思ヲ推定シタル者ニ過キス當事者其意思ヲ表示セサルニ當リテ始メテ適用ヲ受クヘキモノナルカ故ニ其法律ノ性質トシテ決シテ禁止的、命令的ノモノニアラス全ク許容的ノモノニシテ其取捨ハ一ニ各人ノ意思ニ存スルモノタリ

此道理タル内外國法牴觸ノ場合ニモ亦適用セラレヘシ其法律タル禁止的、命令的ノモノニアラス之カ取捨ヲ各人ノ自由意思ニ任スルモノナル以上ハ甲國ノ法律ニ從フモ乙國ノ法律ヲ取ルモ敢テ關スル所ニアラス一ニ各人ノ意思ニ從フテ可ナリ各人ノ便利ノ爲メニ成ル法律ハ各人ノ便利ノ爲メニ亦之ニ依ラサ

ルコトヲ得ヘキナリ

故ニ其内國ニ於ケルト外國ニ於ケルトヲ問ハス合意ニ關シテ何レノ國ノ法律ヲ適用スヘキニ付當事者ニ於テ其意思ヲ表示シタルトキハ之ニ從ハサルヘカラス(第五條)然レトモ當事者ニ於テ其意思ヲ表示セサルトキハ如何立法者ハ此場合ニ於テモ出來ル丈ケ當事者ノ意思ヲ推測シテ下ノ如キ規定ヲ下セリ

第一、當事者ハ悉ク同國人ニシテ而シテ何レノ國ノ法律ニ從フヘキヤヲ定メタル場合、此場合ニ於テハ法律ハ推定シテ當事者ハ多分其本國法ニ從フノ意思アルヘシ若シ他國ノ法律ニ從ハントナラハ之ヲ明言セルナルヘシ何トナレハ本國法ハ彼等ノ最モ依頼シ尊敬シ且熟思スル處ナレハナリ故ニ此場合ニ於テ本國法ヲ適用スルハ當事者ノ意思ヲ推定シタルモノナリ

第二、當事者各其國籍ヲ異ニスル場合、此場合ニ於テハ合意ニ最モ關係多キ地ノ法律ニ從フ甲國民ト乙國民ト乙國內ニ於テ又ハ他ノ丙國內ニ於テ合意ヲ爲シ而シテ從フヘキ法律ヲ表示セストセハ當事者ノ國籍ハ異ナルカ故ニ本國法ニ從フノ意思ナリト推定スルヲ得ス否一個ノ合意ニ付二個ノ法律ヲ適用ス

ルノ方法ナキハ理ノ視易キモノナリ果シテ然ラハ當事者ノ意思ハ其合意ニ最モ關係多キ地ノ法律ニ從フノ意思ナリト推定スルハ決シテ誤ルルモノニ非ス
 順當ノ規定ナリトシ立法者ハ斯ク規定セルナリ
 草案第九條ニハ此第二ノ場合ニ於テハ合意ヲ爲シタル國ノ法律ヲ適用スヘキ
 モノト規定セリ是レ實ニ近世歐洲立法家及ヒ學者間ニ多數ヲ占ムルノ說ナリ
 トス蓋シ事ソ實際ニ於テ者フルニ縱令同國人ナリトテ久シク外國ニアレハ却
 テ居住スル國ノ法律ニ從フ意思ナルコト多カルヘシ況ンヤ當事者雙方其國籍
 ナ異ニスルモノニ於テチヤ此等ノ者ハ多クハ契約ヲ爲スニ當リテ其地ノ代言
 人公證人等ニ依頼スルコト常ナルニ此等ノ者カ外國ノ法律ニ通曉セサルハ事
 ノ常體ナレハナリ然レトモ確定法文ノ之ヲ採ラサリシハ合意ヲ爲シタル土地
 ハ必スシモ事實上合意ニ最大ノ關係ヲ有スルモノニアラス或ハ場合ニ於テハ
 合意ノ地ヨリモ合意ノ執行ノ地ノ法律ヲ適用スルコト最モ當事者ノ意思ニ適
 合シ且ツ公益ニ適スルヤモ知レストノ旨意ニ出テタルナリ
 諸君ハ既ニ人ノ身分能力ハ其本國法ニ從フヘキコトヲ知レリ然レトモ合意ニ

革命ヲ結果シタリ

路易十八世子ナシ皇弟シアルナ立テ、儲貳トナスシアル時ニ齡既ニ五十
 八弱冠ヨリ素行修ラス爲メニ天賦ノ技術モ埋没シテ其光ヲ發スルコト能ハサ
 リシ然レトモ、齡耳順ニ及ンテ漸ク行ヲ改メ宗教ニ歸向シ以テ世人ヲ瞞着セン
 ト試ミタリ其主義トスル處ハ路易十四世ト同シク國王自ラ萬機ヲ處斷スルニ
 アリ常ニ人ニ語テ曰ク英國ノ如キ立憲君主タランヨリハ寧ロ山間ニ樵夫トナ
 リテ伐木スルノ勝レルニ如カスト其主義意見概テ斯ノ如シ時ニ路易十八世多
 病ニシテ政務ニ堪ヘスシアルナシテ代リテ政ヲ攝セシメシカ保守黨等ハ時
 機到レルヲ喜ヒ皇太弟ヲ擁シテ「ガルド」ナシオナール「民軍」ノ總督トナシ羅馬舊
 教會頭ニ舉ケ相助ケテ黨勢擴張ニ盡力シタリシアルニ二子アリ共ニ賢明ナ
 ラサリシモ長子アングーレーム公ノ御息所ハ曾テ革命ニ際シ犠牲ニ供セラレ
 タル皇后ノ皇女ニシテ巾幗社會稀ニ見ル處ノ英物ナリ痛ク母后ノ横死ト一族
 ノ不幸ヲ歎キ常ニ共和黨ニ對シテ怨ヲ抱クコト深カリシカ此ニ至テ良人ニ勸
 メテ共和黨及ヒ奈勃翁ノ任用シタル將校等ヲ虐遇シ以テ聊カ當年ノ復讐ヲ爲

シタリ然レトモ之カ爲メ大ニ軍人社會ノ歡心ヲ失ヒタリ抑路易十八世ノ最初ノ内閣ハリシエリユー公ノ組織スル處ナリシカ氏ハ勤王家ナリシモ決シテ保守家ニハ非サリシ千八百十五年始メテ開設シタル國會ニ議員トシテ出席シタル者ハ殆ト皆保守黨ナリシヲ以テ總理大臣リセリユーハ勿論國王ニ至ルマテ其意外ノ結果ニ一驚ヲ喫シタリト云フ而シテ政府ハ先ツ此議會ニ提出スルニ保安ヲ目的トセル數種ノ法律ヲ以テシ其同意ヲ得テ騷擾ヲ企テタル嫌疑アル者ヲ禁錮シ人身ノ自由ヲ褫奪シ「クール、ブレウ、オートル」ト稱スル特別裁判所ヲ各縣ニ設ケテ之ヲ取扱ハシメ尋常裁判所ノ如ク陪審官ヲ置カス又將佐官ノ中ヨリ之カ檢事ヲ任シ武斷ノ逮捕ヲ爲セリ此ニ於テ苟モ政府ノ忌諱ニ觸ルルノ言行アルモノハ悉ク縛セラレ忽ニシテ七千人ノ大獄ヲ起シ武官ノ位置之カ爲メ危カリシ加之ナラス奈翁ノ計畫及ヒ其紀念ハ悉ク破壊セラレ甚シキニ至テハ鷲ヲ捕ヘテ之ヲ焚殺シ畫像ヲ焚棄テ其灰ヲ河水ニ投スルノ痴事アルニ至レリ蓋シ鷲ハ奈翁ノ旗章ナレハナリ僧侶モ亦此機ニ乘シテ中世時代ニ於ケル宗教的專制ヲ復活セント欲シ今日ノ佛民ハ百中ノ九十五マテ舊教徒ナレハ僧

侶モ亦々十中ノ八九ハ舊教家ナリサレハ當時ハ尙ホ甚シカリシナルヘシ但シ今日ノ佛國政府ハ舊教ヲ嫌厭スルコト甚シク大學ニ於テ舊教ノ神學ヲ研究スルヲ許サ、ルナリ寺院ノ住職ハ成ルヘク風采ノ美ニシテ辯舌ニ巧ミナル者ヲ選ミ宗教上ノ儀式ハ専ラ壯麗華美ヲ主トシ唱歌奏樂以テ愚夫愚婦ヲ眩惑センコトヲ期シ特ニ婦女ノ信仰ヲ買フヲ以テ第一トナセリ是一般宗教家ノ秘訣ニシテ婦人ハ兒女ノ教育ヲ事トスルカ故ニ先ツ之ヲシテ其教ヲ信セシムルトキハ其兒女ハ自然之ニ感化セラレ、モノナレハナリ而シテ僧侶ノ離婚廢止法律ヲ得タルモ又此議會ノ賜ナリキ

斯クシテ政府ハ專制ノ手段ニ由リ不平黨ヲ壓服セント試ミタリシモ却テ其不平ヲ激烈ナラシメタリ其近因ハ曾テ奈翁ノ任用シタル將校ヲ殺戮シタルニ在リ素ト此等ノ將校ハ佛國有名ノ武人ニシテ曾テ奈翁ノエルバ島ヲ脱シテ佛國ニ上陸スルニ當リ競テ其旗下ニ蟬集シ翁ヲシテ再ヒ勢威ヲ得セシメタル巨魁ニシテ陸軍大將テイノ儕輩ナリトス然ルニ政府ハ此等ノ將校ヲ投獄シタルノミナラス剩ヘ之ヲ死刑ニ處シタルヲ以テ人民ノ憤怒ハ遂ニ破裂シテ内亂トナ

レリ而シテ保守黨ハ之ヲ以テ政府ノ處置緩慢ナルノ致ス處トナシ尙ホ一層ノ
 嚴罰ヲ共和黨ニ加ヘンコトヲ主張シ議院モ亦保守黨ノ巢窟ナルヲ以テ等シク
 非常手段ノ斷行スヘキ所以ヲ論シ之ヲ議決シタリ然ルニ議會ハ是ニ満足セス
 尙ホ進テ專制法律ヲ議決セント爲シタリシカハルイ王ハ之ヲ不當トナシ議會
 ナ開散シ新ニ議員ヲ召集シ此新議會ニ於テ政府ハ選舉法改正案ヲ提出シ製造
 家及ヒ資本家ニ選舉權ヲ附與スル精神ヲ以テ改メテ議員ヲ府縣ノ選舉人ヨリ
 無記名投票ヲ以テ直接ニ選舉セシメ千八百十五年七月以來ノ成規ナル直接國
 稅金貨六十圓ノ年額ニ相當スル財產ヲ必スシモ其本籍ノ府縣ニ於テ所有スル
 ニ及ハストシ補闕選舉ノ場合ニ於テハ其選舉ヲ關係府縣ニ於テ行フモ其候補
 者ヲ全國内ヨリ採ルヲ得ルコトト爲シタリ而シテ此法案ハ千八百十七年二月
 五日ヲ以テ法律ト爲リ佛國議會ハ立憲黨ニ多數ヲ得セシムル組織トナレリ蓋
 シ以前ハ資格所有者ハ選舉人ヲ指名シ選舉人ニ於テ議員ヲ選舉スル制ナリシ
 ナリ

勢力ヲ失フノ傾キアリシガ此時總理大臣リセリユーハアーヘン府ニ開カレタ
 ル列國會議ニ臨席シ親シク露帝埃相ウエリントン公等ニ接シテ其保守專制
 主義ノ感化ヲ受ケ佛國ヲ神聖會盟ニ加入セシメ歸朝ノ後斷然從來ノ立憲主義
 ナ抛テ保守主義ヲ主張シ其結果トシテ改正選舉法ハ其宜シキヲ得サルヲ以テ
 更ニ之ヲ保守主義ニ變更スヘントノ說ヲ唱ヘタリシモ内閣員ノ多數ハ之ニ同
 意セス議員モ亦大ニ反對シタルカ爲メ掛冠シテ野ニ下レリ時ニ千八百十八年
 十二月ナリ之ニ次テ内閣ヲ組織シタルモノハデソール氏ナリ氏ハ立憲主義ナ
 リシヲ以テ職ニ就クヤ否ヤ同主義ノ士六十五名ヲ新ニ上院議員ニ任命シ以テ
 上院ノ實權ヲ握リ又新聞檢閱法ヲ廢シテ寬大ナル新聞ニ關係セル三法律ヲ施
 行シ(千八百十九年)無法ナル縣知事ヲ免職シ之ト同時ニ過激ノ共和黨員ニシテ
 嘗テ國外ニ追放セラレタル者ノ罪ヲ赦シ再ヒ之ヲ本國ニ召喚シ大ニ輿望ヲ滿
 足セシメタリ新内閣ノ主義方針既ニ斯ノ如クナルヲ以テ千八百十九年ノ補闕
 選舉(毎年議員總數ノ五分ノ一宛退職シ五年ヲ歷テ漸次一新スルノ制ナリキ)ニ
 於テ選出セラレタル議員ハ皆ニ立憲黨ニ止ラスシテ又過激ノ共和黨ヲモ包含

スルニ至レリ然ルニルイ王ハ其兄ニ對シテモ過激ノ共和黨ヲ容ル、能ハサリシカハ總理ニ命シテ其主義ヲ變更セシメントシタルモデソール氏ハ命ヲ奉セス依テ總理大臣ヲ免シ極端ノ共和黨員一名ヲ黜ケ十一月十六日デカーズ氏ニ新總理ヲ命シタリ而シテ新相ハ就職後直ニ毎年補闕選舉ニ關スル選舉法改正ノ事ヲ約シタリシカ翌千八百二十年ニ至リ偶然ノ一事變ニヨリ此内閣モ亦蹉跌シタリ抑當時ノ皇太弟シアールハ極端ナル保守家ニシテ專制ノ政治ヲ好ミ迷頑ノ信心者トシテ民意ニ背悖シタルコト素ヨリ少カラス之カ爲メ民間志士中竊ニ皇太弟ニ怨ヲ抱クモノ多リシカ竟ニ二月十三日皇弟ノ第二子ベリー公ハ刺客ノ爲メニ暗殺セラル、ニ至レリ此ニ於テ保守黨ハ之ヲ好機會トシテ内閣ヲ攻撃シテ曰ク此暗殺事件ハ素ト内閣ノ主義温和ニシテ施政緩慢ニ流レ暴人ニ對スル取締ヲ怠ルカ爲メ生セシモノニシテ即チ内閣ハ其責ニ任セサルヘカラスト是保守黨トシテハ適當ノ口實ニシテ皇太弟モ亦之ニ同意シ遂ニ内閣ヲ交迭セシメタリ蓋シ二月二十日ノ事ナリ

其後ヲ承ケテ起リタル總理ハリセリユー公ナリ新内閣ハ先ツ議會ニ提出スル

二三條令ヲ以テタリ曰ク新聞紙檢閱法復施曰ク保安法施行曰ク復選舉法再施是ナリ然ルニ立憲派ノ議員等ハ勿論民間ノ志士ニ至ルマテ皆絶對的ニ此ノ如キ議案ノ通過ヲ好マサリシカ故過激ノ徒相聚リテ巴里ニ一揆ヲ起シ以テ其通過ヲ妨害セント謀リシモ直ニ政府ノ爲メニ鎮壓セラレ其志ヲ達スルコト能ハス議案ハ無事ニ議會ノ關門ヲ通過シ選舉法ハ一種ノ分數的復選舉方法トナリタリ恰モ此時ニ際シ嚮キニ暗殺セラレタル皇子ベリー公ノ寡婦分娩シテ一子ヲ舉クホルド一公是ナリ實ニベリー公ノ遺子ナリト云ヘト人民ハ皆其眞僞ヲ疑ヒタリ是實ニ千八百二十一年九月二十九日ノ事ニシテ即チ伊太利西班牙ニ革命起リ又トロッパオライバハ等ニ列國會議ヲ開キ稀世ノ英傑奈勃列翁一世セント、ヘレナノ孤島ニ於テ逝キタル頃ナリ此ニ於テ保守黨ハ愈々勢ヲ得テ一舉シテ立憲黨ヲ挫カント欲シ議員改選ニ際シ頗ル盡力スル處アリ遂ニ議會ノ多數ヲ制スルコトヲ得因テ第一著ニ當時ノ總理大臣リセリユーニ對シ信任投票ヲ行ヒ多數ヲ以テ其不信任ヲ票決シ更ニ保守黨員ウイレイユヲ推シテ總理大臣ニ任セシメタリ時ニ十二月十三日ナリ氏ハ特ニ財政商務ニ精通シ且ツ謀

略ニ富ミ保守黨中錚々ノ人物ナリ翌二十二年ウエロナ會議ノ決議ニ由リ其西班牙ヲ伐ツニ當リテヤ氏ノ財政家ヲ以テ猶ホ金貨二千萬圓ノ支出ニ究シ一時躊躇セシモ竟ニ之ヲ議會ニ提出シテ其同意ヲ求メタリ然ルニ立憲黨ハ以爲ラク若シ此議案ヲ可決シテ愈、西班牙ト開戦シ幸ニ佛國ノ勝利トナルトキハ之カ爲メ保守黨ヲシテ益、勢力ヲ得セシムルノ虞リアルノミナラス又現時ノ財政上斯ク多額ノ金貨ヲ支出スルハ甚タ不可ナリト乃チ議場ニ於テ大ニ之ニ反對シタルモ衆寡相敵セス六十二名ノ立憲黨議員袖ヲ連テ退場シ終ニ議會ハ此案ヲ認可シタリ此ニ於テ皇太弟ノ長子アングレーム公兵ニ將トシテ千八百二十三年ヲ以テ西班牙ヲ征シ半歲ニシテ之ヲ平定セシカ保守黨ハ之ヲ以テ専ラ自黨ノ功績ナリト誇張シ却テ民心ヲ失ヒタリ幾許モナク議會ヲ開散シ千八百二十四年三月總選舉ヲ行フニ當リ政府大ニ之ニ干涉シタルカ爲メ其結果ハ下院議員四百三十名ノ内立憲黨十七名ノ少數トナレリ而シテ政府ハ此議會ノ自己ニ便利ナルヲ以テ之ヲ永續セシメント欲シ議會ノ協贊ヲ經テ同年六月九日ヲ以テ選舉法中毎年議員總數ノ五分ノ一ヲ改選スヘシトノ條項ヲ全廢シ總テ

一割三分半同砂糖ノ消費高一割九分ヲ増加セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ全体ニ於テ之ヲ論スルニ英國ノ勞力者ハ著シク其生計ノ度ヲ高メシ者ト云ハサルヲ得ス然ルニ實地勞力ノ供給漸ク多キノ勢アルハ近年頗ル不振ノ色ヲ顯シタル農業ニ於テ勞力ノ過剩アルニ由ラスンハアルヘカラス實ニ近年ニ至テハ地主、農業者、農夫共ニ皆往日ノ得色ナキハ亦掩フヘカラサルノ事實ニシテ其物産價格ノ減少ハ以テ借地料ノ減少ヲ來シ農業全體ニ影響スルハ蓋シ已ムヲ得サルノ數ナリ今英國農業報告ヲ見ルニ西曆千八百七十三年ヨリ八十四年ニ至ルマテ英、蘭、及ヒ蘇格蘭ノ耕地ハ百萬「エイカ」以上ノ減少ヲ示セリ是レ豈ニ近時農產物ノ下落ヨリシテ資本ヲ農業ニ投スルコト大ニ減少シ地主ハ更ニ之ヲ貸附スルニ由ナク又自ラ資本ヲ投シテ以テ自作スルニ利ナク故ニ農業中最モ勞力ヲ要スル少クシテ且其監督ト費用少キノ牧畜ニ變セシニ由ルナキヲ得ンヤ宜ナル哉近時農業勞力者ノ業ヲ失フモノ頗ル多キヤ實ニ英國農業ノ景況ニ據レハ一千「エイカ」ノ地ヲ耕サント欲セハ二十五人ノ勞力者ヲ要スト雖モ若シ之ヲ牧場トスレハ假令廣袤數里ニ涉ルモ僅ニ五六人ノ勞力者ヲ使役スルヲ以テ充分ナ

リトス此ノ如キノ形勢ナルヲ以テ農業上勞力者ノ需要ヲ減スルコト二十萬人其家族ヲ合セテ六十萬人乃至八十萬人ノ人民ハ此原因ヨリシテ生計ノ道ヲ失ヒ遂ニ田舎ニ止マルコトヲ得スシテ大ニ市街ニ集リ日ニ其生計ヲ求ムルニ汲々タリ是ヲ以テ耕地ノ全ク荒蕪ニ歸セシモノ亦少カラス實ニ英國農夫ノ境遇ハ殆ント望ミナシト云フヘシ(西曆千八百八十五年出版アルフレート、ロス、エール、ウオレス氏著、バッド、タイムス)ヲ參觀セヨ)

就中英國農事ノ景況常ニ悲ムヘキ景況ヲ呈スルヲ愛蘭地方トス西曆千八百七十五年以前ハ農業品ノ價格未タ著シキ減少ヲ來サス愛蘭農業者相當ノ利益ヲ得敢テ借地料ノ支拂ニ困難セサリシト雖モ近年ニ至リテハ其野菜耕作ニ從事スルモノ、外ハ農産物ノ下落ヨリ農業一般悉ク野菜物ヲ作ル能ハスニ影響ヲ蒙リ殆ント借地料ヲ拂フコト能ハサルノ悲況ニ陥レリ佛國經濟學士グランゼイ氏ハ殊ニ愛蘭ノ經濟ニ注意シ種々同國ノ事項ヲ調査セリ今同氏ノ說ニ據レハ愛蘭ノ人口ハ外國移住ニ由リ西曆千八百四十七年ニ於テハ八百二萬五千ナリシニ八十七年ニハ四百八十五萬二千ニ減少セリ然レトモ方今ノ農業景況ニ

於テハ人類普通ノ生計ヲ得ント欲セハ愛蘭ハ二百萬乃至三百萬人以上ヲ養フコトヲ得スト云フ佛國農事モ亦英國ト同様ニシテ彼ノアイスン省ハ佛國屈指ノ富裕ナル所ト雖モ農業ハ殆ント收支相償ハス自作農ハ土地ヲ購買スルヲ欲セス却テ之ヲ賣却セントスルノ傾キアリ

近時歐洲諸國農業ノ困難ハ獨リ英佛ニ止マルニ非ス既ニ數回論シタルカ如ク伊、獨等ニ於テモ亦甚タ困難ヲ感セリ是レ主トシテ米、濠兩大洲ノ農業發達ト海陸運送ノ便開ケシニ由ルモノナリ今米國產ノ麥ノ五、エイカノ產出高カシカゴヨリリバプールマテ英國麥畑ノ一、エイカニ施ス肥料ノ代價ヨリ廉價ニテ發送セラル、ノ事實ニ對シテ英麥ノ顔色ヲ失フハ亦是レ已ムヲ得サルノ數ト云ハサルヲ得ス佛國農業ノ如キハ彼ノ「アニリオン」色素ノ發明ニ由リ「マッダ」ノ耕作全ク不用ニ歸シ「ロオン」河岸地ハ往時有益無雙ト唱セラレタル一大農業ヲ失ヒ他國ヨリモ一層不愉快ナル影響ヲ受ケタルモノト云ハサルヲ得ス然リト雖モ是只一部ノ擾亂ノミ廣ク眼ヲ全局ニ注キ衣食住費用ノ減少ヨリ細民ノ生計ニ及フ所ノ景況ヲ見ルニ英、佛、獨、伊ノ如キ最モ農業上ノ變動ヲ感セシ國ト雖モ之ヲ

往日ニ比シテ著大ナル進歩ヲ來セリト云フヲ得ヘシ只全體ノ進歩ハ時ニ或ハ一部ノ利ヲ奪フコトアリ豈ニ已ムヲ得ヘケンヤ郵便電信起テ飛脚屋滅ヒ人力車起テホイ駕籠沒シ瀛車起テ又人力圓太郎ヲ苦シムルカ如ク固ヨリ公益ノ爲メニハ一部ノ不利ヲ顧ミル能ハス若シ夫レ之ヲ憂シ乎飛脚屋ノ爲ニ郵便電信ヲ廢シ人力圓太ノ爲メニ瀛車ヲ廢セサルヘカラス三尺ノ童子亦其得失ヲ知ルニ非スヤ元來物質上ノ進歩ハ物品ノ供給ヲ増加シ其代價ヲ減少シ勞力ノ需要ヲ減スルハ固ヨリ其所ナリ實ニ近來改良進歩ノ勢ハ駭々トシテ其止マル所ヲ知ラス從來ノ景況ヲ以テ將來ノ勢ヲ察スルニ未來ニ於テモ尙ホ多少ノ變動ナキヲ得サルヘシ果シテ然ラハ未來ニ於テ又一二ノ問題ナキヲ得サルヘシ則チ勞力ハ機械擴張ノ爲メ大ニ需要ヲ減スルコトナキ乎競争益、激烈ナルカ爲メ物價益、下落シ生産者ハ苦ミ勞銀ハ減少シ婦女及ヒ少年ノ使役益、擴張スルコトナキ乎等ノ疑義ヲ生スヘシ要スルニ世人ニ於テ是等ノ變動猖獗ノ勢ヲ逞シ終ニ生産上ニ大混亂(アナーキ、ナフ、プロダクシヨン)ヲ生スルヤノ疑ヲ起スハ亦免レサル所ナルヘシ

輓近生産分配上ノ變動ヨリシテ前記ノ疑問ヲ發スルニ至ルハ敢テ庸愚ノ見ニ非スト雖モ幸ニシテ今日マテノ經驗ニ據レハ是等ノ疑問ハ殆ント杞憂ニ屬スルカ如シ今勞銀ヲ以テ之ヲ論スレハ全體ニ於テハ決シテ減少ヲ見ス却テ著シキ増加ヲ示シタリ則チ獨逸ヲ除クノ外勞働時間増加ノ傾向ナク日曜勞働モ亦同國ニ限レリ魯國ニ於テモ勞力ハ概テ面目ヲ改メタリト云フヲ得ヘシ勞力者ノ景況夫レ此ノ如ク而シテ物價ノ下落亦著シキヲ以テ人民物體ノ消費力ハ大ニ増加シ巨大ナル生産ノ増加モ多クハ需要ノ道ヲ開クニ難カラス(強ヒテ保護政略ヲ以テ産出シタルモノハ最モ苦シメリ)シテ意外ニ物品ノ停滯ヲ見ス殊ニ直接衣食住ノ需要品ノ如キハ數量品質共ニ非常ノ増加ヲ示セリ然レトモ精神的ノ需要ハ肉體的需要ノ如ク急ニ増加スルコト能ハス國民ノ智育德育ハ物質上ノ進歩ト相伴フ能ハサルハ近時ノ常況ニシテ精神的需要品則チ裝飾品教育用品衛生用品ノ如キ未タ以テ直接口腹ノ慾ニ供スル物品ト其需要ノ度ヲ等フセス是レ細民教育ノ進歩未タ物質的ノ進歩ト其度ヲ同フセサルヲ示スモノト云ハサルヲ得ス然レトモ輓近諸國政府大ニ意ヲ教育ニ用ユルニ由リ未

來ニ於テハ茲ニ進歩ヲ見ルヤ疑ヲ容レサルナリ今ヤ合衆國ノ上等職工ハ一年千五百「ドル」ヲ歲入アルモノ少シトセス而シテ僧徒代言人等ノ歲入之ニ過キサ
 ルモノ亦少シトセス然ルニ兩者ノ需要大ニ其性質ヲ異ニス是レ教育ニ差異アル
 ノ致ス所ナリ他日前者ノ教育少シク進歩セハ亦大ニ其需要ヲ異ニスルナキ
 ナ得ンヤ
 輓近物價ノ低落ヨリ消費ノ増加スル此ノ如シ實ニ是レ消費ノ消長ハ物價ノ高
 低ニ由ルノ原則ヲ實地ニ示スモノト云フヘシ請フ例證ヲ掲ケテ以テ實地ノ景
 況ヲ示サン

日常需要品ノ一ナル砂糖ノ消費ヲ以テ之ヲ論スルニ合衆國ニ於テハ西曆千八
 百八十二年ニハ一英斤ノ代價輸入ノトキノ價格ニシテ關稅ヲ負擔セサルモノ
 關稅率ハ當時二十號マテハ一英斤ニ付三仙二十號以上ハ三仙半マキンレー稅
 率ニ據リ方今ハ通シテ一英斤ニ付半仙トナレリ四仙七五ナリシニ八十六年ニ
 ハ二仙九二トナリ一人ノ平均消費ハ西曆千八百七十七年ヨリ八十二年ノ五年
 間ハ一年三十九英斤ニシテ八十二年ヨリ八十七年ノ五年間ニハ四十九英斤八

ニ増加シ八十八年ニハ五十二英斤六ニ増加セリ八十五年ト八十七年トヲ比較
 スルニ砂糖ノ消費高ハ一割一分以上ヲ増加シ遙カニ人口増加ニ超過ス此ノ如
 ク増加シタル需要ニ對スル一億英斤以上ナルヘシ供給ヲ得ルニハ砂糖ノ生産
 運送ニ從事スル勞力者ノ數ハ非常ニ増加セサルヲ得ス實ニ世運ノ進歩ト共ニ
 勞力ノ需要ヲ増スコト亦大ナリト云フヘシ

珈琲ノ消費ヲ以テ之ヲ論スレハ西曆千八百八十七年合衆國ニ於テハ其一英斤
 ノ輸入價格ハ凡ソ十六仙ニシテ輸入高ハ三億三千百萬英斤八十五年ニハ輸入
 價格ハ平均一英斤八仙ニ減シ輸入高ハ五億七千二百萬英斤ニ増加セリ而シテ
 世界全體ヨリ之ヲ論スルニ西曆千八百七十三年ヨリ八十五年マテニ珈琲ノ市
 場ニ登ルモノ凡ソ五割二分ヲ増加セリ八十六年以降ブラジルノ珈琲ヲ生産ス
 ル頗ル凶歉ニシテ其價格著シク増加シ其消費高歐洲ニ於テ百萬俵(俵ハ「バグ」
 ニシテ「バグ」ハ五十「キログラム」ナリ合衆國ニ於テハ一人ニ付一年二英斤ノ
 減少ヲ示セリ此ノ如キ消費ノ減少ハ同品ノ生産分配ニ從事スル勞力ノ需要ニ
 非常ノ減少ヲ來セシヤ疑ヲ容レス抑、日常需要品價格ノ減少ハ勞力者生計ノ度

ナ高メ貯蓄ヲ促スノミナラス勞力ノ需要ヲ増加シ大ヒニ細民ニ利アルモノト
 ス若シ夫レ其上騰ニ遭遇セン乎全ク反對ノ效果ヲ來シ細民ノ不幸是ヨリ大ナ
 ルモノナシ實ニ需要品價格ノ高低ハ細民ノ利害ニ關スルコト大ナリト云フヘ
 シ
 銅ヲ以テ之ヲ論スルニ西曆千八百八十七年ノ歲末ニ至ルマテ產出高ノ増加ヨ
 リシテ其價格ニ著シキ減少ヲ來シ八十六年中合衆國ノ主要ナル銅及ヒ黃銅器
 製造所ニ於ケル銅ノ需要高二割四分以上ヲ増加シ八十五年ニ於テ殆ント同額
 ノ増加ヲ示セリ既ニ製造所ノ繁榮此ノ如クナレハ勞力ノ需要隨テ亦増加スル
 ハ自然ノ理ナリ然ルニ西曆千八百八十七年ノ歲末ニ至リ銅價大ニ増加シ銅及
 ヒ黃銅器製造ヲ掣肘シ是等ノ事業ニ從事スル勞力ノ需要頗ル減少セリ
 瓦斯ノ製造漸ク進歩シ其使用方法ノ改良セラレ、ヤ價格亦大ニ減少シ隨テ石
 炭採掘及ヒ其運送ノ事業擴張シ之ニ從フ所ノ勞力ニ需要ノ増加ヲ來シ頗ル盛
 況ヲ示セリ近年電氣燈顯出シ大ニ競争スル所アリト雖モ老熟ナル瓦斯燈ハ尙
 ホ其明ヲ失ハス此レ電氣燈ハ當初其設置ニ費用多ク之ヲ瓦斯ニ比スルニ頗ル

賣捌所

東京京橋區尾張町

東海堂

同 神田區錦町

武藏屋

同 神田區一ッ橋通リ

有斐閣

麻布區永坂町五拾壹番地

旭堂

同 神田區表神保町

東京堂

明治廿六年七月六日印刷

明治廿六年七月七日發行

定價拾錢

東京市神田區西小川町一丁目八番地

發行兼印刷者 高橋捨六

東京市小石川區下富阪町十七番地

編輯者 濱田健次郎

東京神田區今川小路二丁目八番地

發行所 特別認可 私立專修學校